

日南町
まちづくり懇談会
議事録

《目次》

1. 福栄まちづくり懇談会	P.3
2. 日野上まちづくり懇談会	P.10
3. 大宮まちづくり懇談会	P.22
4. 多里まちづくり懇談会	P.30
5. 石見川 WS	P.42
6. 石見まちづくり懇談会	P.51
7. 山上まちづくり懇談会	P.61
8. 阿毘縁まちづくり懇談会	P.74

福栄まちづくり懇談会

8月25日 14:00～16:20

福栄まちづくり懇談会 8月25日 14:00～16:20

地域参加者：21人

役場参加者：町長，副町長，教育長，総務課長，藤原課長，伊田課長，古都課長，
内田課長，青葉室長

(北垣室長，北原，長崎)

河上会長あいさつ

暑い中出席ありがとうございます。

日頃より福栄校区のみなさんには、まちづくり協議会事業につきましてご協力ご指導いただきましてお礼申し上げます。町行政との懇談会はじめての取り組み。福栄校区のみなさんと行政の交流会ということでお話をする機会を設けました。

活性化するには、行政はもちろん福栄の皆さん方がともに元気を出して相談しながら、前向きに日南町を考えていくことが大切。

福栄校区は、みなさんのお力添えで年間を通じていろいろな行事を行っており、町行政のご支援をいただきながら、将来夢のあるまちづくりをしていきたいと取り組んでいるところです。

今後の福栄を行政と共に考えて、活力のある福栄をつくりあげていきたい。

町長あいさつ

まちづくり協議会ができて1年半となる。はじめての懇談会、日頃それぞれの地域で頑張っていたいており、感謝しております。

なぜ地域づくりかですが、地方分権で、地域からもり上げて国を動かすというのが地方の時代で大事になってくる。

南部町でも7つの協議会を立ち上げ、その過程では大宮のまち協を視察された。一年以上経過した本町においては、これから本番だろうと思う。

地方が変われば国もよくなるということがあるでしょうし、町長がかわらなければ、議会が、職員が、町民がかわらなければ町はよくなるということで、改革ということが言われております。行財政改革に早くから取り組み、かなりの効果が現れてきたと思っています。その間、みなさんにご辛抱いただいていることは間違いないのですが、町の財政がしっかりしてこないと、みなさんに迷惑をかけることになるので、みなさんに理解とご協力をいただいているところです。

福栄校区、がんばってもらっていると思っている。

この懇談会は、福栄が皮切り。できるだけみなさんのテーマをいただいていることについて重点的に取り組みながら、町の考え方なりを申し上げ、限られた時間ではありますが、懇談していきたいと思っています。

補佐をいただく副町長を7月から狩野副町長にお願いしているところです。議会もケー

ブルTVで放送してつぶさに知っていただいているが、情報公開ということがまちづくりの上でも重要です。

住民の皆さんから日南町の職員はよくやっていると言われるように頑張っていかなければならない。

住民のみなさんも、従来の町のやり方に満足せず、主張すべきは主張し、積極的に地域の活動に参画して一緒に頑張っていきましょう。

町にも課題があり、雇用、農業、林業。新しい工場を立ち上げ、新しい製品を作っていくということで準備を進めている。雇用も26人くらいを確保すると聞いている。福祉の方では、日南福祉会で新しい施設の準備をされている。雇用の確保と定住対策。それには住宅の確保が必要。民間と一緒にになって取り組んでいきたい。さらには、小学校の問題について、教育のあり方会議等を立ち上げ年内には結論を出すよう今後精力的に取り組んでいくこととしています。

高齢化、若い後継者、こどもが少ない中で、まちをどうしていくかを一緒に考えていきたいと思っています。

このままでは、日南町に人が住まないようになるのではという危機感も出てくることになりかねない。そうでなく、30年後の日南町の姿をとらえて、着々と議論を深めている。早め早めに対応しながら、日南町の夢を持ちつづけていきたいと思います。今日は、そういう機会として、短時間ではありますが、懇談の場としたいと思います。

①日南町活性化ビジョンについて

日南町をアピールする観光事業の取り組みや効果など説明してほしい。

(町長)

日南町の今後の計画や取り組みについて、町の活性化ビジョンという一本のものは作っていない。今後まち協で地域別のビジョンがほしいと思っている。

町としては基本は総合計画。10年間の過疎計画の前期後期。福祉計画（高齢者、障害者）。次世代育成計画（子育て支援）。

教育のありかた会議。30年後の日南町の姿プロジェクト。

きめ細かい地域のビジョンを作っていただいて、協同して取り組んでいきたい。

(企画課長)

「総合計画」過去の経過からどうなのかを考える必要がある。15～24歳の年間60～80人の転出。50年間の繰り返しでピラミッドがいびつな形になってしまった。若者定住どうするのか、社会保障や教育のありかた、過疎高齢化の中で集落機能をどう維持していくのか（インフラ整備や維持などの役割分担）

行革の中で地域に担当してもらう部分が、多くなった。

行政は、産業促進（働く場所をつくっていく）ことを第一前提に考えている。

オロチの設立から森林資源を活用して地域経済としてまわしていくということを体系化する。

高齢化を背景に日南福祉会のグループホームで26人の新規雇用。

地域では、集落機能の方を長期的な視点ももってもらって、福栄をどうもっていくかを考え、ビジョンづくりをしていていただきたい。

(総務課長)

日南町は健康、高齢化についての対策をしてきたが、それを継続しながら、定住・若者対策に力を入れているという意味で、けっして観光に力を入れていないという訳ではなく、何もかも手を出すということではなく、重点を置いているということをご理解願いたい。

(河上会長)

井上靖記念事業を終えて・・・不足な部分

トイレ、駐車場、周辺整備にお金が必要。要望どおりの財源の支援をお願いしたい。

地域もボランティアで取り組みたいと思っている。

(町長)

この春、井上靖生誕百年ということで取り組みをされて、大変だったと思いますが、その総括というか問題点なども聞かせていただきたい。「天体の植民地」よい表現をもらったので、大切にしたいと思っている。

(伊田)：女性

神福老人会：年3回の草刈り、草とりをしているが、高齢に伴って参加できない人が増えてきた、若い人が入られないので、いつまでつづけられるか…。

トイレの便器が傷んでいる。洋式にして半水洗にしてほしい。

(佐伯)

イベントをした駐車場の部分をもう少しきっちり舗装してもらえれば、清掃すべき範囲も減って助かるのではと思う。

(副町長)

日南町でできる観光は、地域間の交流というレベル（外から来てもらって、地域の自慢を観てもらう）。次の機会には、外の人と一緒に関わってもらうような仕掛けもこれから必要になってくると思う。

(福田)

地元が地元のPRの仕方、地元を知らない。勉強しようにも聞く先もわからない。

概要は説明できても内容が説明不足になる。若い人だけでなく、自分たちも勉強しなければと思った。校区を考える上でも同じこと。

(町長)

私もグループの一員でずっと歩かせてもらったが、井上靖と福栄のつながりは説明を聞いて現地を見てはじめてわかる。

(福田)

地域の理解と協力があってできたことである。

(伊田) : 女性

サクラソウのところにも当日200人程度来られた。

(副町長)

地元の充実感が次につながる。

サクラソウの盗掘はなかったですか？

心配があるので、当番を決めて番をしているので、なかった。イノシシが掘ったくらい。

ヒメザゼンソウなど湿地植物がいろいろある。

自生地に行けないお年寄りのために、手軽にさくらそう鑑賞できる場をつくろうと思っている。

1 H 2 4 M

② 若者定住対策の取り組みについて

－小学校統合－

(教育長)

小学校統合は、21年度を目途にしている。

統合後の校舎の利活用－(阿毘縁)一部まち協で利用

(大宮)一部まち協で利用

学校博物館の位置づけ、老朽化している矢戸の資料館の資料の保存場所などとしての利用も考えられる。

通学対策：統合後の定期バスの増便なりを考慮して考えたい。

統合小学校：日野上小学校の増改築の方向で考えている。(3～4億の費用が必要)

教育のあり方会議の議論をふまえて今年度末には明確にする。

(企画課長)

－結婚問題－

該当の年齢層を増やすことが必要だと思う。そのためには働く場が必要ということで、重点的に取り組んでいる。

－住宅問題－

住宅については、公営住宅の増設整備については考えていない。民間住宅や空き家の活用や民間事業者に参加していただいてそれを町が支援するというかたちでやりたい。

(浅田)

小学校の統合については、昨年までは、地域での会やアンケートがあったが、今年になって何もない。20年度になって急に言われて従えるかということと無理があると思う。

(教育長)

方向性をより具体的にしている段階。

(浅田)

統合するには何がどうなるのかということ、具体的なものが見えてきたときには、ひとつつつでも示していったほしい。

(企画課長)

教育のあり方会議を立ち上げて議論している。

統合によってのメリット、日南町の教育をどういうふうにしていくのか議論している。

9月に町としての原案をいくつか提示して、シンポジウムをしたいと思っている。そこでの議論をもとにさらに見直しをかけて、12月の段階である程度のものを出したいと思っている。

(小竹)

21年度に統合と言われるが、あと1年間でいろいろと調整していくのが間に合うのか。今、あまりにも情報が聞こえてこない。

(企画課長)

21年度の統合は大前提。議論の経過はHPなどで公開している。ソフト的なシステム、ハードの整備は20年度でやっていけると思っている。

(教育長)

21年度統合に向けて、最大の努力をしていって取り組んでいきたい。

(小竹)

役員だけでなく、もっと情報がほしい。膝を交えて話が聞きたい。

(河上会長)

この問題は、町民が心配している。もっと説明してほしい。

(浅田)

結婚問題について、仕事、住宅を確保していると言われるが、それが必要だが、今現在の独身者に対して取り組むことを考えてほしいと思う。以前の取り組みを復活してほしい。

(総務課長)

やめた理由は、町内男性の参加者が少なくなったこと。困っている人が声を挙げてほしい。スタッフ側も歳をとった。新しく若い世代で取り組んでもらえるなら、ノウハウは提供できるし、支援できる。

(河上会長)

まち協でも聞きとりをしていく、行政のサポートも是非お願いしたい。

③地域からの要望

「農業」町民（農家）の実態をもっと知ってほしい。不在者のものを配られても、大阪

の方に住んでいる人の印鑑まで、我々がとらなければならないのか。
地域でやりなさいと役場ができなくなったからみんな地域に出している。
実態を把握してから農協に委託するべきだったのではないか。

農地を集約して、指導して若い人材を育てるべき。費用は国がみるべき。町からもっと
思い切った転換を国に要望してもらいたい。

(副町長)

農政が大転換してしまっ、これに対してどうすればいいのか大混乱している。
農業は我々の足下の仕事なので、ご意見を取り入れながら、いろいろなところで声を上げ
ていかなければならないと思います。

(農林課長)

不在者の手続き上の該当水田になっている。
最近の農政は集落単位になっている。誰かがもれたら対象にならない。
実態調査して対応させてもらう。

営農座談会を開催したい。そのときにはまた知恵をおかりしたいと思います。

若い方や定年で帰って来られた方の農業を支援しなければならない。アビレ地区では農
地の交換など実験している。
話し合いによるむらづくりをすすめていきます。

(佐伯)

神戸から飛時原に上がる川にオオサンショウウオが生息している。

(伊田美和子さん宅の前)

神戸部落にオオサンショウウオがいたが、工事でコンクリートを打った際に下流に放
したのだが、今戻ってきている。護岸が陥没する危険性がある。早急に対応してほしい。

(副町長)

早急に確認するようにする。

(福田)

上坂部落：携帯の電波が届かない。

(企画課長)

携帯電話業者がアンテナを立てない部分は、どうしようもないが、光ケーブルを使って
の通信システムをソフトバンクに打診している。

ただしソフトバンクで事業化が認められなければ、実現しない。

日野上まちづくり懇談会

8月28日 19:00～

日野上まちづくり懇談会 8月28日 19:00～

地域参加者： 66人

役場参加者：町長，副町長，教育長，総務課長，青戸課長，伊田課長，山内課長

内田課長，青葉室長

(久城室長，北垣室長，浅田主任，片岡主事，実延主事，北原，長崎)

足羽会長あいさつ

日野上は細長い地域なので、各自治会で状況もちがい、課題も山積しているが頑張っているところです。行政としてのご支援お願いしたい。

県の教育関係者と話をした際、日南町でまちづくり協議会は成功するだろうと言われた。取り組みの姿勢や文化の香、「人づくりはまちづくり」の土台もあるので。われわれのできることは、一生懸命やっていきたいと思いますので、厳しい意見かもしれませんが、提案や意見を言わせてもらい、日南町のめざす〇〇を早期に実現しますよう皆さんの忌憚のない意見をいただき、有意義な懇談会にしたいと思います。

町長あいさつ

このようにたくさんの方の参加していただき、大変うれしく思います。

昨年発足してはじめてのまちづくり懇談会、福栄，大宮と終わり、3回目となります。

発足して1年数ヶ月、順調な出発だと思っている。

県下で先駆けて取り組んだが、機構改革と言われましたが、強制ではなくて地域が自立をしていこうというひとつの取り組み。

福栄では観光，大宮は魅力ある農業をテーマに行われた。

農業には魅力ない，若者はどんどん出ていき高齢者ばかりになったという声もありましたが、これからは農業は魅力あるものになっていくだろうと申し上げた。住んでいる先輩のみなさんが町はダメだダメだと言えば、こどもたちもやはりそんな気分になり、住んでもらえない。林業においても、国産材時代になっているが、農業においても、世界的に食糧の不足がいわれており、日本でも自給率40%を下回るようになっている。食糧の確保ということに真剣に取り組まなければならない。減反も進み耕作放棄地が出てきておりますが、農業が生活の上に必要になってくると思われます。農業をおろそかにできない。魅力ある農業を目指していかなければならないと思います。

町がかわらないと国もかわらない。地域がかわらないと町もかわらない。そういう考え方で今すすめているところです。職員がかわらなければ役場もかわらないと職員にもハッパをかけている。どうすれば実現できるのか考えるのがプロの職員の仕事と言っております。首長もかわらなければいけません、役場ばかりの生活でかわりばえがないわけですが、幸い副町長がかわりましたので、そういう面では首長もかわるのかなと思っています。議会もチェック機関と言われているが、チェックも大事だが政策づくりも執行部と

共に取り組んでいく必要があると思います。

町民もやっぱりかわっていかねばならない。そういうことでまちもかわってくる。情報公開して情報を共有してやっていかねば、なんでもみなさんやってくださいというだけでは進まない。

林業の再生，教育の再生，３０年先にどんなまちづくりができるのかということを今から考えていかねばならないということで取り組んでいるところです。福祉も分野でも、高齢化，少子化がすすんでいます、子育ての面で基金を設け、高齢者に対してはグループホーム等を企画しているところです。

これからまちが輝いて元気でいくためには、みなさん町民一人一人の努力，行政の努力，議会の取り組み等が一体となって、これから進む必要がある。

有意義な会でよかったなあということになるような懇談にしたい。

座長選出 原学さん（まち協副会長）

進行役というかたちでやっていきたいと思います。

年に一度の懇談会、これを言っても無理だなどと考えてしまうと何も出なくなってしまうので、あまり深く考えずに意見要望を出してください。

日程説明 ７時～９時まで。

（１）地域のまちづくりを考える

①まちづくりに対する活性化案を探しましょう

日野上は細長い特異な地域。まち協もさまざまな活動をして元気でたのしい地域をつくろうを合い言葉に頑張っているところ。各自治会でも自分たちなりに少子高齢化と向かい合いながら、元気をだして頑張っておられる。まち協＋自治会と二本立てになるという声も出ていた。当初はとまどったが、最近是一緒にやっていこうという気運も出てきたように思っている。

何を柱にやっていくのか試行錯誤しながらやってきたが、全体で共通の話題をさがして、全体に通じたことをやっていこうということを柱にしてやってきた。ふるさとまつりに出展計画を立て、一丸となってやってみた。協力的に出していただき、いいかたちになったのではないかと思っている。「元気・勇氣・やる気」をキャッチフレーズで楽しくにぎやかに取り組んだ。今年も同じようにふるさとまつりに出展しようと計画している。

来年は、校区一本で敬老会をやろうじゃないかと協議をすすめている。共通の話題と、自治会でできないようなことをまち協で取り組もうと考えている。そのうちにまち協の存在感も出てきて、みなさんから注視されるようになるのではないかな。だんだんと参加していただいて、校区全体で盛り上げていこうということで頑張っている

ところですよ。さらに盛り上げていくために妙案があればお聞かせ願いたい。

更なる発展を期待したいと思うので、違ったカタチで盛り上げる手段などありましたら、聞かせていただきたい。

次に、

まち協2年目。地域のまち協とも地域の特色を生かして活発な活動をされており定着したところにきているのではないかと思います。これからまち協がどういった方向に進んでいくのか、どういったカタチで進んだ方がいいのか、これから先にかけて不安でもあったら聞かせてほしい。来年のことは想定だが、これからまち協の体制をどういった状況につくっていくのか視野に入れていきたいと思っている。

このふたつの点をお聞かせいただければと思います。

(原座長)

みなさん方からありましたら、発言をお願いします。

(絹谷)

町民の立場から見させてもらっているが、まち協は地域で特色あるものをつくれということで、各校区違ったもので始まっている。

日野上の特徴は変えることはできない。そのなかで頑張っている。

この頃、町の下請け的な存在になっていないか？

自治会組織とのはっきりした違いを明確にして、切り替えていくのか、両方して徐々にひとつを消滅させていくのか、まだぼやけているように思う。

事務体制も一人では大変になってきている。

明確に説明してほしい。

(企画課長)

まち協、1年半経ちました。山上、阿毘縁は1年モデル事業をしているので1年早く始まっているが。

もともと少子高齢化をうけて、自治組織（集落機能）が維持できなくなってきた。そういう背景をうけて、自治会から見れば中二階みたいなかたちになったが、まち協を組織したという動きです。

地域の色彩や特色があるので、捉え方もいろいろあったと思うし混乱もあったと思う。1年半客観的に見て、山の上、多里、福栄の地域には、この仕組みが比較的びたっときたのではと思っています。効率的にできるようになった。

日野上、石見は、自治会が非常に頑張っておられる地域。その地域では、このまち協はいわゆる中二階になるわけですので、戸惑いも混乱もあったと思うし、予算的に自治会の経費が少なくなったというふうな捉え方もあったかと思います。その中で、事務長さんも言われたように、この1年半経過した中で、ある程度落ち着いてきたという見方もあると

思います。

これからこのまち協を、自治組織をどうもっていくのかということは、モデルのない話だと思いますので、それぞれの地域でやっぱり考えていくべきだと思っています。

このまち協がびたっときている地域では、それを必ずやられてみんな一致団結してやられるでしょうし、中二階になってちょっと難しいなという場合には、例えば、石見ではまち協と自治会がすみ分けをして、役割分担をして整理されているということもあります。私見ですが、日野上の生山や霞といったきちとした自治会をされている、こう言うのはなんですが、反面、比較の中で言うと丸山から河上の自治会というのは非常に大変だということそういう色彩もあるんだろーと思います。そこのところで、そういうふうはこのまち協に関わらせていくのか。ちょっと語弊がありますが、たとえばという話で言いますが、丸山から河上でひとつのまち協を組織するというやり方もあるでしょうし、中二階といえどもお互いひとつの日野上なんだからということでその中で一緒にやっぺいこうという特色あるやり方を考えればいい。自治組織としてのいろいろな部会があるでしょうし、やり方の中でスタイルやシステムがあるでしょうから、その中で特色というものを、皆さん方で一番いい方法を常に積み重ねながらやっていく時期だと思っています。

私どもの方がこれがいいんだと、あるいは先ほどありましたように行政の下請けだといったことは一切思っておりません。ただ我々が支援するかたちの中でいろいろな示唆なり、指導といういろいろなポイントの中でのお話をさせていただくことはありますけれど、要は連絡調整はさせていただきますけれど、下請けというふうな考え方は持っていません。本当に、住民のみなさんが主体的にやっていくというふうに考えておりますので、そういう捉え方で、今後のまち協いう自治組織のあり方というものを検討いただけたらと思っています。

(三森)

町は単独で生きていくと言われるが、やる気のあるやれる自治会は単独でやってもいいのではないかな？町の方針でまとめるというのは違うような気がします。

(町長)

それぞれの地域でおかれた環境も考え方も違うかも知れないが、日野上はまちの中心地ということで、若干、他の地域と違うかなということもありますけれど、それぞれの地域が地域ビジョンづくりということをされている。

自治会は自治会で独立してやれるのではないかということですが、当然最小の単位が自治会の中の班であり、班の集まりが自治会であり、自治会の上にまち協がある。まちがあって地域があるという最小の範囲がまち協ということで、昨年出発した。

従来、自治会とのやりとりをしていたが、現在はまち協を中心にして、補助金にしても一本で出しているの、自立のかたちで取り組んでいただきたいと思います。

自治会の活動はそれはそれで自立をしてやっていただくということです。

お願いしたいのは、日野上は日野上としてのビジョンづくりに取り組んでいっていただ

きたいということ。それに伴って、町としてどういう支援ができるのかということのをこれから一緒になって取り組んでいくということがいいのではという気がしているところです。いろいろ議論をしていただいて、どういう組織、地域づくりがいいのかということのをこれから構築していただきたいと思っています。けっして強制するものでもありませんし、下請け的なことになってはいけないということで、是非、地域で自立をしていただきたいという、そういう意味での単位がまちづくり協議会ということで取り組んでいます。

(三森)

自治会でやっているときより仕事が多くなった気がしてならない。役場の方は合理化されたかもしれないが、住民の合理化もあっていいのではないか。時代の流れがあるから、下三栄自治会も単独ではやれない時期になりかけているかも知れないが、でもまだやれるという気持ちもあるし。

(副町長)

これから単独自立してそれぞれの地域が高齢化、過疎化の中で頑張っていくには、日南町は日南町の色を出していかなければいけないということだと思う。日南町では、7つの少しずつ色の違う地区があるということで、色を出していくために、このまち協ができたのはよかったと思う。中で、自治会の強い力があつたところについては、組織運営、行事といった面でダブってくるところがあるかと思うが、内部でうまく整理していくか、自治会とち協のすみ分けとかを整理をする段階なのかも知れない。具体的に不都合が出てきた場合には、聞かせていただければ、いろいろな運営の仕方につなげていきたい。

(原)

1年前にこういうことをやろうといったころから、あまり変わっていない気がする。

町からの補助金が、各校区同額。人口割が必要だということを日野上は言い続けていかなければならないと思っている。

(田辺事務長)

一番目のまちづくりの活性化案については、本来我々が答えを出して取り組むべきものでありますが、更なる妙案があればということで問いかけをしてみました。やはり、我々でやれということだと思いますので、そういうことで取り組んでいきたいと思います。

②高齢化にともなう独居世帯等の支援活動は何ができるだろうか。

独居老人世帯が増え、若い人の一人暮らしも増えている。若い人は生活が乱れがちで、近隣の迷惑になるとか自治会に対して示しがつかなくなるという事例も出てきた。

どんな対策や予防策がとれるかということで、声かけ運動や、パトロール隊の結成とか各団体との連携を密にするとか、方法があると思うししていかなければならないと思うところです。行政で支援策のとれる事業等があれば、提供していただきたいと思う。

まめな会は定期的にされて、お年寄りは楽しみにして参加されていていい制度だと思いますが、ほかに何かいい策がありましたら、教えていただいて一緒になって取り組みたいと

思っています。

(福祉保健課長)

高齢化率44% 高齢者施策は大きな課題と思っている。

独居世帯，独居高齢者の支援が必要ということ、その通りと思う。

高齢者が健康で自立した生活を営んでいただける支援策に取り組んでいる。民生児童委員による見守り。社会福祉協議会の見守り「まごころサービス」。

介護予防の会「まめな会」、集まっていたりの方も限定されてくる地区もある。

高齢者以外の支援を必要とされる方も増えているということもあり、そちらの対応もしている。心の病気をお持ちの方には、まず心を開いていただくことが大切で、その際に、地域の方や民生児童委員さんのご支援をいただいたりして対応させていただいているところです。

高齢者の対応については、行政だけではできないので、地域の住民のみなさんの支援をいただきながら勉強させていただきたいと思っています。

(田辺美知子)：女性

日野上のまち協のあるべき姿、他校区と状況が違う。町の指針どおりの3つの柱を立ててスタートしたが、このカタチが日野上に合っていないのかなと思っています。産業振興部が、日野上に必要なのかなと思っています。日野上のまち協としての独自の組織を再編する時期にきているのではないかと思います。

独居世帯の声かけや子どもたちへの声かけ。長い地理的条件をふまえて、災害時の対応について。このようなことをふまえて日野上の住民に認識されるようなまち協をつくっていく時期だと思う。みなさんの意見を聞かせてください。

(松本)

独居の高齢者のお宅で、盆おどりの寄付をお願いしている最中に、突然倒れられたのを目の当たりにして、そういう人が増えていることをふまえて、声かけ運動やパトロールなど、やはり考えていかなければいけないと思っています。

(福祉保健課長)

前向きな提案ありがとうございます。独居高齢者の状況を24時間把握するのは困難なので、日々状況を見ていただいている中で、支援が必要な状態じゃないかと思われた場合はご一報ください。地域での見守り支援のネットワークづくりが必要。社福のまごころサービスがその一例。町としても高齢者の中での身体的、生活習慣病的な病気の改善支援だけでなく、心の病気の部分でのネットワークづくりも昨年12月に立ち上げた。地域のみなさんや、郵便局、消防、警察…に参画いただいている。これらが機能できるようにこれから充実させていきたい。各まち協や自治会にどういった関わりをもっていただくのか、

検討してご支援のお願いをさせていただけたらと思っています。

(原)

田辺さんの意見については、次期の問題になると思いますので、また協議したいと思います。

要望事項

○高規格道路について

バス停…生山駅での昇降ということをできるだけ守ってほしいと思っています。

バス停変更の陸運支局への申請がまだ出されていない。(広島市内でのバス路線変更とあわせておこなわれるので、来年3月～4月)現段階では、白紙といっ

○同和教育の活発な推進を

公民館がなくなったことで、社会教育的な部分での啓発が弱まっていくのではと心配されているのだと思います。まち協との連携をさせていただいて、研修の場を大いに検討していただきたいとお願いなり、協議なりしていきたいと思っています。

変わらず、人権教育指導員の配置、職場研修会、小地域懇談会と取り組んでいます。学校教育と社会教育の連携も大切。人権教育の参観日に保護者も一緒に見ていただいたり、意見交換したりしていただいています。PTAでも人権教育の位置づけをお願いしており、各事業所や団体など小グループによる取り組みにも指導員が出かけていき、研修を深めている。新たな取り組みをどうするかということもあろうかと思いますが、現在やっている事業や、研究大会、各種研究大会への派遣を充実させていくことが大事だと思っていますし、継続が大事だと思っています。こういうことをやってみたらというようなことやこういう研修をやってみたいというようなことがありましたら、遠慮なく教育委員会へおっしゃってください。

(建設課長)

ー高規格道路ー

生山道路(H17年7月開通)

タカ道路(庄原市近辺 が19年度に開通予定)

江府道路(江府インター～日野町境 整備の採択されている)

鍵掛峠道路(道後山～新屋 計画策定中 国の直轄道路 H20年代後半完成予定)

(町道に格下げになった道路の除雪)建設業者に委託をして今までと同様の除雪をするようにしている。

草刈りは近日中にするというので、今までの維持と変わりないように維持をしていきたいと思っています。

ー河上の迂回路ー

安全対策を講じたので、一定以上の災害条件による規制は撤廃されました。

新たに災害が発生したときには、同様の迂回路が設定されることになるが、多里から出立山を越え福栄に行く道の部分的なカーブ修正を要望して昨年度から工事に入ってもらっています。

高規格は引き続き要望はしていく。

－災害危険地域－

以前に地域から要望が出ており、地震の関係、予算の確保が困難になったことなどで対応ができかねていたということは承知しています。昨年の大雨で、谷筋が民家の近くや民家に及ぼすまで影響があっていました。今回矢戸・上三栄地区におきましては、緊急的な災害部分の予算をまわしていただいて対応しています。いままでと同様の整備手法というのは困難な部分もあるかと思いますが、状況を個々に見させていただいて、一戸といえども、裏山が崩れているような状況では、昨年の災害時のように個別での対応をさせていただけたらと思います。総合的な事業については、予算確保がかなり難しい状況にあります。

－日野川の管理道－

丸山～霞大橋 ひきつづき改修計画を要望していく。

霞大橋から上に短い延長だが、県の費用で整備をはかっていただいていることを申し添えておきます。

－河川敷－

さくら・スイセン街道 いい命名だと思います。

河川敷はどうなっているのかということだと思いますが、いろいろボランティアもあるようでしたが、河川の区域内を作業するボランティアではないということでした。県に問い合わせたところ、H19年度で予算計上してあるということで、草刈りについては対応していただけるのではと思っている。（権現橋～消防署の辺り）

河川ボランティア制度ということで県も対応しているので、さくら・スイセンが河川敷に入りますれば、（まち協で取り組んでいただいても結構）そのような制度を活用してもらえば、十分でないが、ジュースと刈払機の油代くらいは出るということです。

（原）

桜後から先はまだ全然わからないのか？

（建設課長）

米子道や中国縦貫道は起点から終点を決めて逐次工事をしていくが、地域高規格道路というものは、ひとつランクが下がるので、区間を整備してもよいという国の命令があつてからはじめてルートをつくるというものです。全体計画はもともとないということです。

（絹谷）

－矢戸地内の歩道整備－

自治会や関係機関では、学校までを要望しているが、とりあえず矢戸のまちの中だけと
なっている。課長の方からも学校までの要望をしていただきたい。

これが、高規格道路にかわるものならば、別の角度から要望していかないといけないと思
う。

矢戸地内に町道があり、道沿いには文化史跡があるし、独居老人も住んでいる。迂回路
を兼ねた整備をしてもらえないだろうか？

(建設課長)

矢戸・三栄周辺の歩道の整備についてですが、高規格道路との関連については、ありま
せん。

地元での推進体制をつくっていただいて進めていきたいと思います。今回は、段差があ
るとか歩道が狭い、ない部分を重点的に事業化しているし、町中の振動がひどいところ、
そういうところをまず整備して改良していきたいということです。今後については、推進
協議会もふくめて、延長も要望していかなければと思います。

その道は、橋があるということで、あれ以上の復員はできかねるところです。橋から
宮内に向かっては、車が通れない状況ですが、それを整備するには財政上難しいところ
があります。ただ、歩くのに支障があるのであれば、対応していかなければいけないと思
いますし、みなさんにご協力いただける部分があれば、また史跡等を大々的に活用していく
という話があれば、ご協議させていただけたらと思います。

6 その他

(高橋)

米子木材市場等の移転後の跡地活用の計画があればお聞きしたい。

町の施策の重点事項になっているまちづくり協議会、町財政が厳しいのは承知している
が、昨年の交付金4, 289, 000余円だったが、今年度は、830, 000円くらい
の減額になっている。

来年はまた80何万、また次も…と削減されるのか。重点施策なら、削減せずにやって
いただきたい。

(町長)

米子木材市場等の移転後の跡地については、移転先を買っていただき、跡地は町が買う、
交換という計画になっているが、跡地の利用については、今後の検討課題です。

まちづくり交付金については、心の意識がかわってこないとかかわらないので、早くから
取り組んで自主自立ができるまちづくりを目指しておりますので、緩やかな取り組み、気
長にといえは遅すぎるかもしれませんが、取り組みやすくやっていただくということで、
ある程度年数がかかるかなと思っております。

その中で交付金が減ってきているということでしたが、町が施策を講じた中で、育成していきたいということですので、補助金の大きな減額は考えていません。自衛消防の活動交付金の中で、災害対応というものがありましたので、その分がないということで、その他は減ってないと思います。また検証してみてください。

ということで、このまち協は、地域が主体的になって町を動かす、町が主体的になって国を動かすというふうに、上からの行政でなく下からの行政を目指しておりますので、地域が元気になっていただきたい。「元気、勇気、やる気」素晴らしい取り組みだと思います。

(原)

高橋さんの言われた数字は正しい？

(総務課長)

18年度は豪雪だったので、各校区に対して特別の慰労金が出してありました。自治会や自衛消防が高齢者宅の屋根に登って雪かきをしていただいたこともありましたので各まち協に対してそういうものを出しました。それが昨年はなかったので、そういうことで減ったのだと思います。

町財政は楽ではありませんが、住民活動に対しての補助金は、16年度に一律10%カットという乱暴な、今となっては若干反省していますが、そういうふうの削減のやり方をさせていただきましたが、それ以降は、減らしていない。現状維持を続けているということでご理解いただきたいと思います。

(原)

他にないようでしたら、これで懇談会を終わりたいと思います。

鎌倉副会長あいさつ

本日、大勢の方に参集いただきまして、ありがとうございます。それぞれの自治会では、今晚の懇談会に備えて、要望事項など協議されて臨んだと承っておりますが、少し盛り上がりかけたかなと思います。以前の町政懇談会のように、諸々の要望事項を並べるという想定がどこかにあったのかなとの反省もあります。

さきほどから話のありました、自立のためのまちづくり協議会のための意見交換会だったと受け止めておりますが、この会だけでなく次の機会を設けたいと思います。その節は日南町の元気日野上のまちづくりに役立つような会にしていいただければと望んでおります。

町長さんはじめ役場の執行部の方々、夜分長時間にわたって、要望会に近かったと思いますが、住民の意見として受け止めていただいて、町のため、日野上のまちづくり協議会の懇談会に参加していただいた方々の熱意を受け止めていただいて、ともに歩んでまちづくりに励むということで、これからもご支援をご指導をお願い申し上げたいと思います。今日はお疲れでございました。ありがとうございました。

町長あいさつ

私からもお礼を申し上げます。今晚これだけたくさん来ていただきました。

地域のまちづくりを考えるという面では、若干盛り上がりが足りなかった点があるかと思いますが、これに懲りずまちづくり協議会と町政の風通しをよくして、地域が少しでもよくなるというかたちには是非取り組んでいきたいと思っています。

要望事項については、普段からでもまち協を通じてそれぞれの担当部署に言っていただければ、検討する機会もあるということでご理解いただきたいと思っています。

大きなテーマについては、今後こういう場を通じてともに考え、ともに苦しみ、ともに楽しむというかたちで進んでいきたいと思っています。どうぞみなさんの元気、勇気、やる気をおこしていただいて立派なまちづくりを…と思う次第です。今晚は沢山のご来場をいただきました。厚くお礼申し上げます、私からのあいさつとします。ありがとうございました。

大宮まちづくり懇談会

8月26日 13：30～

大宮まちづくり懇談会 8月26日 13:30～

地域参加者：34人

役場参加者：町長，副町長，教育長，総務課長，青戸課長，伊田課長，古都課長，
内田課長，青葉室長

(北垣室長，北原，長崎)

西村会長あいさつ

大宮まち協もだいたい順調な滑り出しで良い成果を出しています。校区民のみなさんの協力と行政のご指導のもとに本日を迎えております。

昨日、高専の先生や県の景観まちづくり課の主幹の方と話し合いをもったところですが、あの方たちの大宮の印象は、「大宮は非常にゆたかな感じがする」ということでした。大宮盆地には電柱が一本もないし、みなさんの人情も伝わってきたと。遅くまで会をしたところですが、今日も行政の方の指導を仰ぎながら、今後の大宮のまちづくりに邁進したいと思いますので、校区のみなさんの忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

町長あいさつ

本日は午前中の会に引き続いて、大宮まちづくり懇談会ということでお越しただいてありがとうございます。

昨年4月にまちづくり協議会ができて、はじめての懇談会になるわけですが、その間、大変な努力をしていただいて、元気をだしていただいております。

特に、小学校統合後の空き教室の活用についていろいろと地域で取り組んでいただいたことに敬意を表します。地域が智恵を出し合って率先してやるということが一番です。

まち協は、県下に先駆けてのいわゆる地域から興すということの取り組みとしては先進地だったと思います。南部町の上長田も視察に来られて新しい協議会をつくられたと聞いています。地域があって、町があって、国があるという形からすれば、やはり地域の組織が一番であるわけであります。大宮地区も頑張っていると思っているところです。昨年来の里山まつり、地域資源を活用したまち興しということでは、これからが始まりではないかと思います。町としても地域から興す、住民が主役で、町を国を動かすというかたちでなければ難しいという時代に移行したわけです。地域がかわれば町もかわるということで取り組んでいます。

首長もかわらなければならないし、議会もかわっていかなければならない。住民もかわらなければならない。そういうような取り組みで改革に取り組んでいます。

日南町としても、行財政改革がひとつの手段でした。成果がようやく現れてくるのではないかと考えています。これもひとえに町民のみなさんのご理解とご協力と考えています。

これから過疎・高齢化が進んで来ますが、次のポスト過疎法については力を入れて、国を動かしていこうと全国展開しているところです。厳しいのは変わらないですが、智恵を出し合って、地域から興して町を動かし、県を動かし、国を動かしていくということで取

り組んでいくことを続けていきたいと思います。

定住対策としても、雇用と経済が成り立ってこそ住めるということから、農業、林業には力を入れておる中で、新しく製造の会社をつくりながら、雇用の促進を、福祉の面では、グループホームをつくるということで雇用の場をつくるようにしています。福祉の面でも高齢者や障害者の問題等、制度が市町村に移ってきており、もっとも身近な市町村が取り組むということになって、雇用の場も拡大しています。そういうことを通じて、そのための住宅への対策も必要になってきています。

いろいろな面で、みなさんの思いをお互いに出し合いながら、今後のよりよい方向性でのまちづくりに取り組んでいきたいと思います。

今日は、副町長以下各課長が参っております。共にまちづくりに取り組み、情報の共有をはかりながら取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。いい成果が出てくるように、忌憚のない話し合いをしていけたらと思っています。

①魅力ある農業とは

高齢化によって耕作できない家が増えてきている。印賀については法人組織で経営しているが、奥に入れば入るほど耕作していない田圃が増えてくる。

土建業の方がされているところもあるが、あまりよい管理がしてないような状態。

行政の方から助言があればと思う。農地・水・環境保全対策事業は、印賀だけが取り組む。中山間地…は他の地区では脱落したところがある。制度はもっと緩やかなもので、みんなで取り組めるものであってほしい。検討課題としてテーマにしております。

3 4 M（農林課長）

制度的には詳しいことがわからない部分もあるが…。

大宮では中山間が脱落した地域がある。農地・水…というのは、国から言うとセットである。大宮では、モデル的地域になっているが、ファームイングのように法人化する、他校区では認定農業者がたくさんおられて、地域の農地をまとめて維持しておられる。

大宮には、認定農業者がいない。

農地の流動化をどのようにしていくか。日本の農業構造をかえていこうという仕組み。これは農業をする人を絞る仕組み。絶対ではないが、農業を知っている若者がいなくなる。そういったことも警戒しながら、一時の農地保全でなく、永続的に保全されなければならない。

（林業－農業の取り組み）

阿毘縁 高木さん

地域を支えるという観点で、大規模経営をして、お世話になった地域で雇用を生んだ例。

ブロッコリー2作、ピーマン7000本

年齢や性別や性格をうまく使ってやれば、地域での農業の起業が可能ではないか。

(商業－農業)

多里

ヒメノモチの製造 ただ、11月～2月限定

それ以外の時期の雇用を継続するために夏場、ピーマンを作っている。

季節をうまく使った例。

いい環境である大宮で、新しいカタチの集合体で（面積や経営規模は別として）同一品目を作って消費地をさがして売る。加工技術も立派なものがある。生ものだけでなく加工まで考えたまちづくりを実践すれば、農業はそんなにわるいものではないと思う。

(段塚)

ファームイングの事例があったが、菅沢地域では、農業を辞めたいという人が出てきた。辞められると、近辺で耕作しているところに被害が出るおそれもあるので、辞めてもらっては困るし、自分も引き受けて耕作するわけにはいかない、若い担い手もないという状況で悩んでいる。

(町長)

地域の悩みはどこも同じと思われる。町としても農業をどのように守っていくのがいいのか真剣に考える必要があるということで、新しく農林課を独立させた。

朝どれの規模拡大

農業大学校出身の若者に期待して行政も支援していきたい。

(農林課長)

親戚や外国人研修生受入、地区外（阿毘縁など）の力をうまくつかって補う。

田圃を順番に休ませていくようなやり方も参考にさせていただけたらと思う。

(戸崎)

災害時の補助を、昨年のような補助の仕方を継続してやってほしい。

(建設課長)

町の単独制度を利用して災害復旧されれば、負担はあるが早く復旧できる。自由も利く。

(上田)

法人化の最優等生のように言われていますが、1000万近い赤字を抱えて四苦八苦したこともありましたが、みんなで協力してやってきた。今でもかつかつでやっている。

この整備事業やるにあたっては、個人耕作もあった。ゆくゆくは個人耕作できなくなったら、そこについては法人が責任をもって吸収して地域の農地を守るという考えでやってきた。昨年あたりからその実態が出てきた。転作はできないが、耕作はしないといけない。

しかも事業費の未償還期間が相当あり、それを確実に償還するような経営と賃借料の価格設定が必要になってくる。10年経過して昨年暮れに二回目の10年契約をしたところ。償還金がかからないので、小作料はかわらず。そうやってやっている。

若い者の転勤の関係で1年だけ作ってくれということがあったが、長引くようで、しばらくなんとかしてほしい。とか、保有米程度は作るけど、大きい田圃はお願いしたいという申し出もあっている。最大25haまでは法人で面倒見ようということにしている。これ以上耕作すると、今年の例をみると増やす分は全部転作しなければならず、小作料をみたら赤字になってしまう虞がある。

転作する野菜をきらうわけではないが、労力とあわない。

最少の人員で、19ha水稻とトマトのハウスで20haぎりぎりで維持している。冬場には、年間雇用の人には休ませて給料を払っている状態。積雪のある地域での農業は非常に厳しいものがある。

地方発で主張すべきことは主張し、地方から国を変えていかなければいけない。

(青葉)

農作物の加工ということで、具体的な取り組みの内容をお話していただけないでしょうか？

②菅沢ダムと連携したまちづくり事業推進の予算化

ダムを拠点にした里山まつりをしたが、雨のなか270人あまり来られた。

東山線の整備をして、眺めのよい東屋の周辺の雑木を整備してほしい。ダム周辺環境整備事業で町に交付金が出ているので、その中から捻出してほしい。サイクリングなどでお客さんが来られると思うので。

(農林課長)

東屋のある辺りの雑木も20本伐れば見晴らしがよくなると思う。チェーンソーを持って来るので、地元のみなさんも一緒にお願いしたい。

(総務課長)

水源の交付金ですが、450万出ている。かつては東山線の整備などに使っていた。今は、水源ということで環境や汚水防止というようなことにも使っている。

今、東山線の整備をして、ジョギングやサイクリングを常時していただけるような体制がとれるのか。年一度のイベント時のときだけのためでなく、ニーズがあるのかを確かめてやらないといけない。東屋にも人がいるのを見たことがない。本当にお客さんに来てもらえて、お金を落としていただいて、汗とごみだけでなくお金がおちるように考えていく必要がある。それができての話であれば、行政は相談にのりたいと思う。

(副町長)

ダムビジョンの策定委員の中の米子市や境港市の委員さんとのつながりは今後どのよう

に発展できる可能性があるのか。

(西村事務長)

ダムと町と大宮の住民と推進協議会を立ち上げ、懇談会をしながら、年度末には観光協会さんにも、いまこういう動きをしているということを伝えないといけないと思っている。里山まつりも苦しい中でやっているのです、お金くらい出せないかなというところが本音。

(総務課長)

監査委員が旧大宮小学校の管理のされ方を見に来られて、校長室の展示や保育園との間の部分もきれいになっていて、非常によい状態だと言われた。

(遠藤)

監査委員さんが来られたというのは、ボランティアできれいに片付けたあとだった。要らないものは要らないもので整理して処分し、利用できるものは利用してもよいときちんとして渡してほしい。片付けをすべて地域にさせるのはおかしい。

(総務課長)

遊具の点検をするように手配している。中にいろいろなものがあるが、ある程度利用するもの、置いておくものと一応整理したつもりなので、自由に使ってもらったらと思っていたが、徹底が甘かったようで、再度徹底したい。

(教育長)

鶏小屋の撤去について片づる方向にいていない。もう少し時間をいただきたい。

幼稚園については、倉庫があり、保管しよう判断したものを入れている。

(総務課長)

回答が未確定なものについては、9月中には回答したいと思う。

(秦)

今の旧小学校の管理にどのような考え方をしているのか。地元が考えなければいけないことだが、将来的にどのようにしようと思っておられるのかわからない。あれだけの施設を全て地元で維持管理するのはちょっと待ったがかかると思います。あくまでも町が壊すまで管理しますというならいいが、今のままでは皺寄せがくるようで。

(町長)

地元が有効に利用するための、最低の維持管理はやっていく。

(古都議員)

○地域振興センターの部分に網戸を設置してほしい。

(白根)

○菅沢神社のところの遊具の点検もしてほしい。

(中村)

○魅力ある農業など考えられない。中津合はほとんどが60歳以上。集落崩壊になりかねない。これだけ若者がいない日南町に明るい光があるのだろうか。

(副町長)

戻ってきたい人もある。地域を思う、気になるということになれば、ひとりふたり三人と戻ってくるのではないか。20代30代は難しくても、60ちかい人が戻ってくれるような地域にしないといけないのではないかと思う。日南町の林産資源を見直そうということといいタイミングで日南町が動き出したと思う。民間企業として実績が出てくれば、さらに外に出た人が、日南町に注目してくる。

高齢者をテーマとした事業で若い人を集めてくるというのも地域内で起こす事業のひとつだと思う。

日南町だけで産業を興すというのも限度がある。隣の町や県に依存するということもあるので、つながりを強くするための、社会基盤の整備をもうちょっとしていく必要があると思う。情報を発信して人の目を集めることが必要。

日南町は行財政改革をトップで走った町である。その成果が最初に出て来る町である。これからも、人の目をひくことができて来るはず。足下をよく見て、方向を見定めてきた日南町はまだまだこれから希望の道があると思う。まちづくり協議会などのみなさんのエネルギーを（若い意見、新しい意見、なんとかせんといけんという意見が多い。）集めて人数は少なくとも幅の大きい光を作っていきたい。みんなの一步を踏み出すことで、みんなの気持ちが高まって、自慢できる町ができると思う。

どんどん自慢していきたい。

（中村）

若い者を戻すことは、各家庭で取り組んでいかなければと思う。

（井上）：女性

加工品の件について、ダムまつりやふるさと便を活用している。

許可をとった施設をもたないというのがネックとなっている。家庭科室を使用するにあたって、使用料が要ることなら負担になる。町としてほんとにやる気があるなら、いくぶんかの知恵を貸していただいたり、支援していただけたらすれば前に進みやすいと思うのだが。

（総務課長）

まち協や自治会が使われる場合は、使用料はいただかないが、個人や特定のグループが使用するにあたっては、公平性をもつなかでは、使用料ということが出てくると思う。大宮のまち協でうまい具合に整理がされれば使用料のことは出てこないと思う。

施設の認可ということになると、特定の人しか入らないようにしないと許可しないと思う。保健所に直接相談してみてください。

（企画課長）

まち協を看板にすれば何でもいいというわけではないと思っていただきたい。

本質的に個人がやられるのか、業としてやられるのか。業となると、使用料もあるし。文科省から補助を使って建てた学校なので、その許可ということで難しくなってくる。

小学校の校舎の活用については、基本的には、コミュニティの部分については町で面倒をみないといけないと思っている。ただし、それ以外で、まち協なり地域のみなさんで使われる場合はそれは使ってくださいということで協議を進めて今日に至っている。その部分で個々にちがう部分が出てきたときには、その段階で協議をしていきたいと思っている。

(教育長)

食品加工をされて不特定多数の人に出すということになれば、保健所の許可が必要で、家庭科室だからよいというものではない。保健所に相談されればよいと思います。

(井上) : 女性

保健所に相談すればよいということはわかっており、資料も取り寄せてみたが、お金がかかることですので、聞いてみたところです。

多里まちづくり懇談会

8月29日 19:00～

多里まちづくり懇談会 8月29日 19:00～

地域参加者：36人

役場参加者：町長，副町長，教育長，総務課長，伊田課長，山内課長，古都課長，
藤原課長，内田課長，青葉室長

(北垣室長，北原，長崎)

池内会長あいさつ

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。行政側もお仕事で大変だったと思いますが、沢山ご出席いただきましてありがとうございます。

多里まち協も発足して1年と6ヶ月目を迎えようとしています。

一人の100歩より、100人の1歩ということで、なんとか多里を活性化させたいと今日までやってきましたけれど、なかなか思うようにはいきませんし。

多里に一番不足しているものは何かな？とか、これならできるかな？とかいろいろ模索しながらやっています。

たとえば、自家野菜を天満屋で販売するという取り組みも3度やってみました。多い人で万単位での収入になり喜ばれることもありますし、品物が足りないということもありますし。今年から、種をまち協で用意していわゆる契約栽培というか、ちょっとつくってみてもらえかな？ということもはじめてみました。

子育ての関係も一生懸命頑張ってもらっています。多くのボランティアで成り立っているが、そういう動きをしながら2年目を半ば過ぎたというところです。

今日はまちづくり懇談会ということでお寄りいただきました。テーマを事前に知らせてほしいということで、「日南町の体育行事，文化行事の見直し」「多里にあるいろいろな資源（船通山，出立山など）の活用」町の方と協働でなんとかできないかなと思っています。忌憚のない意見をどしどし出していただきながら、明日の多里を目指して頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

町長あいさつ

こんばんは、多里のまちづくり懇談会です。昨年発足してはじめての懇談会です。福栄，大宮，日野上としてきました。

いろいろなアイデアや提案を出していただいて、よかったな、楽しかったなというような会にしていいただければと期待を持っております。役場の執行職員が参っております。よろしくお願いいたします。

先ほど、会長さんからご紹介があったように、多里のまち協は日南町で一番ではないかと思っています。いろいろな取り組みをしていただいて、積極的な取り組みをいただいております。その陰で、お世話される方には大変だと思います。そのことが元気の出る地域づくりのゆえんだと思っています。

3チャンネルでも多里の番組が流れており、町内にも多里の取り組みが知れ渡っているのではないかと考えています。あわせて、この地域は豊富な資源があると考えています。

(山, 町有林, かつてのクローム鉱や地質学的にも素晴らしい土地。高規格道路が着工するということになると三次の方面には、町内で一番近くなる。将来の未来性が一番高いのではないかと考える。

まちづくり協議会は町の下請け機関ではない。地域づくり, 地域から興すということでは、防災の面, まちを地域で支えていくという自主的な取り組みは、まち協の中心に据えていただきたい。まち協に期待をしているところです。

県下でも、先進的な取り組みだと思っております。南部町, 三朝町からも視察に来られて、それぞれ取り組んでおられるが、その先端を多里が担っていらっしゃると思っています。

今晚は、いろいろなご提案をいただきながら、参考にさせていただいて、よりよい日南町のまちづくりに寄与し、こういう輪を町内に広げていきたいと思っています。地域によって取り組みは異なるわけですが、地域にふさわしい取り組みをご提案いただきながら、有意義な懇談会ということで過ごしたいと思っています。

時間を有効に使っていただき、さらに一層のまちづくりに頑張っていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

1. 日南町主催の体育・文化行事の見直しについて

100kmマラソン, 運動会など。100kmについては多里はかなりがんばっております。実行委員会でされていますが、多里のエイドの数の若干を他の地域の方にもっていただけないかというようなことを提案しております。次の実行委員会では反故になってしまうことがあります。その辺をふくめてもう一度見直したらどうかということで提案をしたいと思っています。

(三澤)

当初5年がひときりということで始まったが、好評もあったでしょうし、日南町の目玉だとかたちで、あれこれするうちに10年やると決まった。一部の方は知っているが、住民全体としては、内容がはっきりと伝わっていないような感じです。趣旨として反対というわけではありませんが、5年やってひときりだとほっとした面もありますし、ボランティアは限られた人でやっていて、歳もとってくるので人数が減ってきて、別のコースのスタート地点でもあり、てんでこ舞いでやっている。あと3回、過大な苦労が思われるわけで、実行委員会さんの方で、現場を見ていただいて、どういうことをしたらよいかと考えてほしい。

(総務課長)

ご理解いただきたいのは、あくまでも実行委員会で行っていること。一部の人間で決め

たという部分もあるかも知れませんが、いろいろなところから来られた人の代表の中で総枠が決まったというふうなことですし、町民全員にアンケートをとって決めるというようなものでもないですし。

役員が、現状を知らないとか楽しんでいるとかいうものではないと思います。開催までに10回以上の会をしておりますし、私どもも、二日間は完全に土日毎日2時からとかでやっています。後かたづけにしても、土日に出た役場の職員が月曜日にも出てやっていますし、一部の役員、実行委員の方も出てかたづけをしています。そういう積み重ねの中でやっています。個別の話をすると本当にどなたも大変だとわかると思います。

町報でも若干紹介しておりますが、大会や、後での実行委員会などで「大変よかった」「日本で一番たいへんだが一番いい大会だ」「応援が非常によかった」というふうな話をいただくともう一年頑張ろうと思うわけです。「来年はどうなるかわかりませんが、みなさんまた会いましょう」といい話をするのは忍びないですし、やはりひとつの区切りとして10回。

5回と言いましたのは、とりあえず5回やってみて、続ける続けないをもう一回考えようということでした。

10回で終わるかというところともいいきれず、みな同じで歳をとっていきますが、それでもまだ終わったあとで「よかったね」という声が聞けるということは、まだ続けられるのかなと思っている。

お金をかけず、無理をしない中で日南町らしさの人情味のあふれる大会ということで評価いただいているわけですので、そんな中での継続をと実行委員会では考えているわけです。

事務局の体制の中で、毎年同じ間違いが改善されないところもあるわけで、継続のなかでいろいろな積み残しがあるわけですが、ボランティアでやっている事務局ということでは、頭にくるけど我慢しないとイケないところなのかなと思っています。

「昨年言ったけど今年も直ってないぞ」くらいの気持ちでまたお叱りをいただきたいと思います。多分実行委員会の誰もの気持ちだと思います。

(町長)

町主催の（そうでないものもありますが）体育文化行事、スポ少も含めて、多様化しており、そんな中での100kmマラソンで大変だと思います。37kmのスタート地点でもありますし。細かい問題については、実行委員会の方に言っていただきながら、10回大会まではやるということにしておりますので、大変ですが、協力お願いしたいと思います。体育・文化行事がなくなると、楽しみが減るという方もあるかと思いますが、みんなで協力してやっていきたいと思う。問題があればその都度、忌憚のない意見を伝えていただき、良い大会になるようにお願いしたいと思います。

(三澤)

いつも本当に大変でございます。

(山形)

100kmマラソンの件で、反省会が生かされてないということがたしかにあります。ボランティアの中でも、いくつかの反省点が改善されれば、もう少し早くボランティアできるのではないかなと思います。事務局もボランティアだが、我々もボランティアなんですよ。誰もが気持ちよく参加できるボランティアの募り方が大事じゃないかなと思います。その辺りを実行委員会に託してほしいと思います。

(総務課長)

交通指導員さんとかエイドステーションの責任者の方は本当に大変だと思います。当日集まってみると、一人だったり二人だったり。都合の悪い人が連絡してもそれが通じてなかったり、そういうことでぐんと疲れる。そういう例がとて多くて、いつも言うけど改善されない。いい加減生かされてもいいんじゃないかと私自身も思っているんで、そのことは強く言いたいと思います。

(池内)

運動会、準備をしていかなければならないと思っているが、町内で運動会をしたいというニーズがありますか？なかなか参加してもらうのが困難です。

(教育長)

以前から、行事が多すぎるということで見直しをといわれききた。

球技大会については、体育協会がそれぞれ選手権などをやっておられるので、それを町の球技大会に位置づけようということで、町主催の校区対抗の球技大会は廃止しました。

体育祭どうするかについては、校区でのばらつきはありましたが、全体を集約して2年に1度やっていこうということでまとめていただきました。

種目に遊技系の種目を多くするというのを実行委員会で検討してもらって、今年も選手の派遣についてお願いしているところ。

体育の日にやることにしていたが、今年は県の生涯学習フェスティバルがあるため、日程調整した結果9月30日になった。

引き続き検討事項としては残しているが、2年に1回の交流の場も必要だろうということで、やっていくということで方向性を出している。

(町長)

郡体48回、4県4郡市の大会も苦しい状況ではある。なんでもかんでもやめてしまうのもさみしいし、ご理解をいただきたいと思います。

②地域資源の有効利用に向けて町と地域の協働について

(秋末)：女性

多里にある沢山の地域資源を生かすということも大きな作業になると思うが、多里のまち協がどんどん町と違う方向に進んでもいけないので、ここで確認したいと思います。

ハード面を要求するのではなくて、どう企画したり運営していくかということが、お互

いのどのような協働の作業のなかから生まれていくのか確認したい。基本的に多里の地域資源を大事にしながら守り、活用する中で何かを生んでいきたいということです。具体的なものをつくっていくためにこのテーマをあげた。日南町として地域資源について長期ビジョンがあるのなら提示してもらって共通認識して進んでいきたいと思っています。

また、まち協はまだ自分のことで精一杯だが、今後成長していった中には、連携しながら多里の何かとよその地域の何かというようなことで幅広い運営がしていけるのではと考える。その際に、町はどういうスタンスで連携に関わっていただけるのか、どこが窓口になるのか、どんな支援をしていただけるのか確認できたらと思っています。

財政が厳しいのは承知の上ですが、厳しい中でもこういう支援ができる、していきたいというようなことまで考えていけたと思います。同一步調でやっていきたいと思っているので力を貸してください。

みなさんの中から資源についての考えを聞かせてください。

(荒木)

船通山、宣揚祭は多里や上萩山の行事という感が強いが、是非町全体の行事として上がってもらえたらと思います。

奥出雲町と神社庁との打ち合わせにまち協としても参加させてもらっていますが、1回だけ。その他に奥出雲町との打ち合わせなどがあっているのでしょうか。

奥出雲町の民間の方との話し合いができたと思っています。奥出雲町は4月の連休にカタクリの日が設定されているということで行ってみた。我々にはわからなかったが、そんなことがあれば参加して盛り上げていきたい。町で橋渡しできればお願いして、民間同士で話がしていきたいと思っています。

4月5月のカタクリの時期、観光バスがたくさん来るが、頂上からの下山は奥出雲町へのルートを使われ、バスは駐車場から奥出雲町へ回って行き、全く多里にはお金がおちない。何かいい智恵がないかなと思っています。

(駒場)

クローム鉱山今はくたびれているが、なんとかカタチが残っているし、当時勤めていた人も数多く健在でおられる。石見銀山ほどではないにしろ、下の若松滝と併せて観光資源と思う。興味ある人には目を引くものであるらしい。なんとか生かす方法を考えていきたい。

(実延) : 女性

自然にどっぷりつかっていると、外から聞いて来られた人などに「珍しいね」「いいものがあるね」と言われて値打ちにと気づくことがある。ノジュールやサンショウウオ、小さい頃から身近で見てきたものが、実は本当に珍しく価値のあるもの。ノジュールなどは私有地です。どういうふう環境を守って、また生かしていくことを考えたらいいか。智恵をおかりしたいと思っています。

(山形)

出立山について、小学生の自然教室で使用されていることしか知らない。ツリークライミングなど、外から人にきてもらえるようなことができないかと思っている。現在どのような利用のされ方があるのか、携帯電話も入らないので、そこも考えてほしい。

(長岡) : 女性

若松鉱山の廃鉱跡について、中海テレビで放映されてからホームランドにも問い合わせがたくさんある。どこにどういうふうに問い合わせをしたらいいかなどわからない。

経済産業省の支援事業の計画があるように聞いているが、その辺りを教えてほしい。危険な箇所もあるので、その辺りについてもお話をお願いしたい。

(浜田)

多里のテニスコート、良い施設を作っていただいて、利用させてもらっているが、全天候型の屋根付きテニスコートにしていだけたらと思います。

(教育長)

文化財のことを少し。多里にはイチイの木、オオサンショウウオ、ノジュールと、国、県、町の文化財がたくさんある。

オオサンショウウオ 国の特別天然記念物

イチイ 国の天然記念物

かしらうち 県の無形民族文化財

ノジュール 町の天然記念物

私の立場では、保護。

指定はするが、積極的にお金を出すというようなことはない。

私有地にあるものは、地主の管理になる。

(副町長)

多里というのは、本当に多里らしいところだと思って聞いていた。

前向きな考え方がたくさん出て、いいところだなと思っていた。

多里には自慢するべきいいものがたくさんあるということだが、我々はもっと自慢していくことが大事。たくさんのテーマが出てきたのはよかったと思う。

観光という側面で考えると発展性がなくなってくるように思う。若松鉱山くらいなら何か仕掛けをすることになりうるのかも知れないが。

船通山を観光という側面で考えると、旅館が必要だとか車椅子で登れる登山道を造れとかいうふうにエスカレートしていつてしまう。

今あるままの状態をできるだけそのまま、地域の方とよそから来られた方とが交流できて、よそから来られた人と切っても切れない縁を作る（準住民、ファンクラブ）。

たとえば境港には山がないので、ある地域の方を季節の移りかわりと共に年4回招いて交流するなど。

観光という切り口でやっていくとどんどんエスカレートしていきがちで、続かなくなる。

金持神社が売れたのは、旅行会社のミステリーツアーである。ひとつのテーマがそこにあった。若松鉾山は、勉強したいとか古いものを見たいといったようなテーマ。水木しげるロードは妖怪というテーマ。そういうテーマのあるところは仕掛けによっては、観光的な切り口も出てくるかと思う。その際には、危険なものもついてまわるので、専門家も必要だし、タイミングとか考えていかないといけないのだと思う。

船通山のを越えての交流については、また県境サミットを動かしてきているので、その中でお手伝いできることがあるのではと思う。

クローム鉾山は、若松滝など組み合わせて、滞在時間を増やし、ホームランドで昼食をとってもらうなどもできてるだろうという感じはする。

オオサンショウウオやノジュールは保全・保護が原則だが、ある意味では使い方かなとも思う。

まち協同士の連携について

(企画課長)

まち協の活動始まって1年半。これまで活動の方式や組織体が焦点だった。多里は早くからいろいろな動きをされていたが。他の地域も地域資源というものに着目してきている。福栄では、井上靖の生誕100年ということで、一大イベントをされた。地域の人が井上靖をきちっと語ろうとガイドをされ、記念館から玉泉寺までをサクラソウもからめて案内された。

小学校に地域の人が講師で行って、福栄の地域資源のことを話すということもされている。

山上ではヒメボタル。2週間にわたって交通整理や案内をされた。ブッポウソウやサンバもいる。この辺りにもいるのではないかな。

多里は、今話があったもの。ひとつ付け加えるなら、多里層。地質学で非常に有名。化石群はもっと重要視されるべき。

大宮は、サクラソウもあるし、水源地域ビジョンという地域活性化のビジョンをつくられて、菅沢ダムとの連携したまちづくりを目指しておられ、ほうきょういん塔なども含めて地域で案内される。

阿毘縁では、解脱寺の裏山の参道を整備しておられる。

石見は、大倉山や花見山があり、大きなブナの木がある。特に花見山には、原生林として二次林なんですけどクマザサがあつてモミジがあり、ミズナラがあり、ブナがある。ハンノキの群生林もある。

この動きというのは、自分たちの地域の資源をデータ化して自分たちでしゃべれるようにしようというのが基本で、副町長が言われた、交流の段階。

今年野鳥の会山陰支部が、福栄のサクラソウとブッポウソウ、山上のブッポウソウとヒメボタルを連携して1泊2日のツアーを組んだ。それぞれのまち協が対応した。

このように、同じ様な資源や違うものでも同じ時期に観れるというものを連携しながらやっていく。今、お金にならなくても、それが情報として人と人とのつながりを生み、天満屋で売り出したときに、その関係の人が来てくれて、多里という地域の名前を上げていく。そんなカタチをされるのがひとつだと思う。多里としての誇り、宝物をどんどんアピールする。そうして多里が日南町のいろいろな地域を引っ張っていくということになるんだろうと思っている。

まち協の予算のなかで、地域資源をどう生かすのかと、どこのまち協もやっている。そんな意識でやってほしい。必要と感じる時には、当然国なり県なり町なりの支援というものを持っている部分もある。観光は農林課、基礎的なデータ化は企画課、文化財の保護なら教育委員会、その都度窓口は変わるが、できるだけ一生懸命やられるものについては我々も一生懸命支援しようと思っている。

船通山に関して、日南町と奥出雲町がどのように交流しているか について
(農林課長)

行政としては、舗装ができたり、駐車場ができたり、舗装ができたり、トイレができたり、遊歩道ができたりと整備はなされてきたと考えている。

今年から観光協会の事務局が商工会に変わった。民間の智恵を取り入れるため。

宣揚祭と記念碑祭ということがある。行政が宗教的な行事に直接というのは難しい。神職会（日野郡、仁多）が幹事をしている。「守る会」各方面の代表でやっているの、日南町としての名前は出にくい。

横田町のときには、単町ー単町での歴史もありますが、合併して広域化して位置づけがしっかりしてくるのかもしれない。横田の町長さんも一度も登られない町長さんもおられたが、継続してやっていこうというのが、関わるものの毎回の話。

船通山の公園管理として、上萩山自治会に登山道の草刈りに11万円弱。

文化財管理として、イチイの木の周りの草刈りに5～6万円。

宣揚祭の開催経費を観光協会に6～7万円。額は、横田と交代で同額を負担してきている。

H13年に広島方面にチラシを15万枚くらい配った。その年からバスが5台くらいくるようになった。

毎日お客さんが来るのでないので、何かを売ろうとしても人件費の方が高くなるというようなことになる。宣揚祭は日にちが決まっているので、そこでうまくデザインする。イチイの木を鉢に上げて売るとか、カタクリもできるのか…検討必要。イワナシも鉢に上げたら非常に高価なもの。

行政の認識としては、これまで多くの人大切に思われて登られている山であり、頂上での360°のパノラマは素晴らしい観光材料と思われる。

(総務課長)

奥出雲町に本庁があるので日南町と隣接という認識がすこし薄くなっている。第2次県境サミット、10月30日に予定している。奥出雲町、安来市、庄原市、東城町、新見市、新庄村、南部町、日野町、江府町。

以前の県境サミットのようなことはなかなかできないと思っている。奥出雲では仁多と横田との交流が第1義。庄原市にしてもそう。前のように一足飛びにはできないが、話し合いの糸口はできるだろう。立ち上げた中で、お手伝いはできると思う。

(町長)

連携は、行政—行政よりも民間から動かす仕組みがよいのではないかなと思う。お互いが大切に育てていくというやりかたが今後大事になってくると思う。

若松鉾山について

(企画課長)

若松鉾山 地上部174ha共有地 日本クロームが71%所有している。

鉾業権 閉山したあとも、鉾山保安監督部が持っている。

町道 町の管理

現時点では、立ち入り禁止の処置をしている。

見たい場合は、日本クロームなりの許可を得て、山根俊夫さんが案内される。

経済産業省 近代日本の発展を支えてきた建築物、構造物を「産業遺産」に認定して全国に公表するという動きがある。

近代日本の鉄鋼業（製鉄業）を支えた施設群、構造物として、製鉄の炉内の〇〇の部分を支えるものとしてクローム鉾（耐火煉瓦）の供給ということで、若松鉾山が日本の80%を供給していたということがあって、鉄鋼部門の鉾山としては、若松鉾山だけがリストアップされている。今後、国の指定する調査機関の調査がされた上で、指定書が交付されることになる。

ただし、国の認定なので、それによってどつと人が来るとか、どんとお金が入りてくるとかいうものではない。整備のために若干の予算措置がされることはあっても。

町内で観光資源として活用できるものとしては、若松鉾山は高いレベルのものである。手を加えず、当時の様子が目に浮かぶようなものが多く残っているので、調査に基づいていけると判断したときには、何らかの体制というか、判断をするときがあるかと思う。

(総務課長)

出立山のキャンプ場も、テニスコートにしても交流施設。

キャンプ場も今年、町外の人に来て使われたのは1件。テニスコートにしても宿泊施設もないようなところに外部から来て使うだろうか。

日南町は財政が厳しいという話をしていますが、厳しいですが、県内では健全財政。

安心安全な町といことで言えば、町民の方がちゃんと税金を払っているのに、町が危ないというのはやはりおかしい。

(青葉)

健全財政だが、資本投下するには小金ではできないというような内容だったかと理解したが。

広域行政生山出張所の新体制について

(総務課長より説明)

これが良い制度だとは思っていない。

生山出張所

江府

19人→14人

24人→29人

6人3交替→5人3交替

8人3交替→10人3交替

火災の際

3人+3人(2台)→4人(1台)

救急の際

生山が出動したときに、もう1件出動要請があった場合、江府から救急車が来るまで待たなければならない。救急体制はおちると思う。

日南町に迷惑はかけないと西部広域は言っている。

何か不都合があったら改善を求めていると思っている。

(生山を本署にして江府出張所にするなど。)

環境林の利用について

(福原) : 女性

環境林を使ったイベントを企画した場合

火を使ってもよいか?

間伐した木をもらってもよいか?

(農林課長)

間伐だからといって何でもきれるわけではない。相談して材を選んで間伐してそれを使って丸太切りをするなど…は可能。

火を使う時は、申請が必要。事前協議を。

(町長)

資源の活用について、点と線でつなぐことで、様々なことができるのではないかなと思う。反面学術的なことや自然保護も大事ですので、地域も監視をしていただくと共に、永久に保存していくということを含めて、提案をいただきましたので、地域と一緒に進めていくことが必要。

ここには魅力のある資源がたくさんあるので、これをつないでいって、地域の活性化になればと思う。

消防の話もあったが、合理化も必要だが、住民の安心安全が第一。今後再編成の際にはまた違ったかたちもあろうかなと思う。

まち協同士の連携の話もあったが、発足して1年半。成長段階の部分もあるが、毎月の事務長会の機会にそういう場で連携のとれるように成長していきたいもの。

変わらぬ熱意を持っていただき、模範となるような地域になるようお願い申し上げます。今晚は熱心にご討議いただきましてありがとうございました。

石見川 WS

9月3日 14:30～17:50

石見川を魚がすめる川にするためのワークショップ 議事録

平成19年9月3日（月）午後2：30～5：50

意見発表者

- 相見 晴久（石見まちづくり協議会）
- 山本 芳昭（石見西小学校PTA）
- 立脇 允昶（いちの会）
- 佐々木 幸喜（日南の水を守る会）
- 日置 佳之教授（鳥取大学農学部）
- 細川 庸一課長（日野県土整備局 計画調査課）

参加者

地元住民

石見西小学校（校長先生、担任の先生、3～4年生4人）

日野県土整備局 河川砂防課 河川砂防班 仲谷 律子

日野総合事務所 県民課 自然活用係 郡 香緒利

山根 雄紀

日南町役場 住民課 松本 道博

田邊 一武

企画課 青葉 誠也

浅田 雅史

長崎 みよ

■ 石見川現況観察

宗後 ー 山根橋 下 ー 月瀬橋 ー 村上さん宅前の橋 ー 谷川橋

■ ワークショップ

（田辺会長あいさつ）

石見地域村づくりの目標に環境を大切にする地域づくりを定めている。

19年度の事業計画のひとつ 石見川（上石見～中石見）を魚のすめるようにするための環境整備をしていこう。有志の方による放流活動のあと、すみついていないという話があったのがきっかけ。

（相見晴久）

かつては、よく川で遊んでいた。上石見はだいたいになかったのかもしれないが、下石見でもウグイやハエが少なくなった。鮎は放流されるのでいる。チョウキリは年によっ

ていたりいなかったり。少なくなってきたのは全体を通じたこと。

鳥や河川工事、淵が少なくなった。こどもも大人も川で楽しめる…そんな川をとりもどせたらと思っている。

(山本芳昭)

小学校の行事でタタラをするとき、砂鉄をとろうとしたが、砂場が少なくなった。昨年は岡田建設のところの砂場まで取りに行った。

自分の考えだが、砂防堰堤ができて山からの砂が出るのが少なくなって砂場がなくなったのかなと。

昨年、自宅の前の川を見て、茶色い苔というか藻がついて汚い川だなと感じた。近年水量が少なくなっていると感じている。ウグイが少なくなった。淵がなくなった。

(立脇)

放流してきた会は上石見の年寄りの「いちの会」。

宗後から野原の橋のあたりまで、よく遊んだ。どの石の下にどう手を入れたら魚が捕れるかまで覚えていたもの。このごろはさっぱり魚がいないと話題にのぼる。漁種も数も。では、捕るばかりでなく放そうじゃないかということになった。

上石見の長寿クラブの年中行事で、川魚を食べる会をしている。冷凍していたものを持ち寄る方法と、当日11時締め切りでの当日の釣果を持ち寄る方法で魚を集めて焼いて焼いて食べる。

「いちの会」で放流しようということになった。ヤマメの稚魚 過去3回 5万円

第1回目 H13. 4. 23 400匹

第2回目 H15. 9. 4 800匹

第3回目 H16. 5. 11 600匹

岡山ナンバーの釣り客が、解禁から2ヶ月程度の間に来る。「放流しているので大きくなるまで待つて」と声をかけると快く承諾してくれる。

原因…水量減ったこと。

ヨシが繁茂している→水の流れるところが狭くなっている。

鳥。(保護されるべきものかもしれないが)

流れを確保するために、川をきれいにしないとイケない。

(町内全域で一斉清掃する日があってもよい)

放流もつづけなければ。(雑魚でもよい。川辺から魚影がみえなければ)

鉄気のせいと言われるが、それなら水質検査もして、数的に示さなければ。

地域をあげてやっていこう。みんなで遊べるように川を蘇らせようではないか。

(佐々木幸喜)

19年間専門家にも意見を聞いて活動している。

川あそびを通して川の楽しさを知ってほしい。

数年前までは、会で放流してきた。翌年行ってみると、いる。昔と比べると少なくなっているが、すめない川ではないので諦めたものではない。

原因…山が荒廃している。

(杉山の奥が手入れされておらず、雨がしみ込まず水源ということにならない。)

雨といっしょに砂が流れて、淵がなくなってくる。

血管と一緒に、川も虫や魚がいるということがよい川であることのバロメータ。

泥は人間のコレステロール。

砂で、石と石の間が埋まってしまって、魚が入れない。日野川の本流も同じ。

魚のあがれない堰堤が多すぎてあまりおもしろくない。

長期的な目でみて、日があたって草が生えるような山にしていくことが大切。

地道に続けていくことが大切。

(日置教授)

かつての河川管理は治水・利水に主眼をおいていた。そのために自然の川が失われていった。

現在の河川管理は治水・利水と同じくらい環境も大切。(多自然川づくり)

石見川：日野川の上流部

下流に石霞溪という、より上流的なところがある。

石見川と同じ様な川

兵庫県養父市 円山川 (マルヤマガリ) 水系 建屋 (タノヤ) 川 (オオサンショウウオが多くいる)

ツルヨシが茂り、直線的な区間が多いが、寄り洲が多く、川幅が広いところもあり、変化に富んだ流れになっている。

オオサンショウウオに配慮して専用の魚道を整備している。

魚巢ブロックが多く配置されている。

【河川に対してどんなことがよくないか】

河川の河道の固定…流れの自由を奪うため、瀬、淵、寄り洲が減少

河畔林の伐採…川のなかの木を伐採する→水温上昇、餌がなくなる

護岸…湧水の減少を招く

セキ…動きを制限

生息域の分断（ほ場整備）…水路水田間の移動を制限する

【どんなふうにしたらよいのか】 多自然型

みお筋を掘ってやる

泥水路は狭い箇所を避ける。

瀬と淵ができるようにする。（石見川では少なくなっている）

湾曲部や河畔の入り組みを残しておく。淀みがあるとよい。（石見川には少ない）

ツルヨシばかりが茂らないようにする。（湾流ができない）

支線や水路の連続性を保つ。

水際を固めないように。（護岸はしようがない。石見川はあまり固めてない。）

河畔の樹木を保全する。

一番単調な流れなのは上石見から中石見（センター付近から下）

鋳物橋付近、合歓木がある。保全するべき。

【生き物の豊かな川にするために調べるべきこと】

・川の形態（断面、みお筋、護岸、瀬と淵、石や岩）見た目や計測

・水質、水量、流速

（季節によって変化するので最低年に4回は計測するべき。過去のデータとの比較）

・生き物（魚、鳥、昆虫、両生類…）かじか、ホタル、鳥なども。

・川の利用 釣りや水あそびする場所（どこがどう利用されているか。）

どこであそぶ？どこが危険？

過去の状態を参考にする。（写真や記憶 これがいた、ここで遊んだ）

問題箇所の上流下流で生き物が豊かな場所を参考にする。

似たような河川（川幅、水量が似ている）で、生き物が豊かな川を参考にする。

生き物にとってよい河川整備が行われた事例を参考にする。

石見川WSの位置づけ

自然再生：過去に河川改修などによって失われた自然を取り戻すため。

WSメンバー

地元住民

都市部住民（その川が好きな人）

漁協

地元（市町村）行政

河川（国土交通省、県）行政
環境行政
生態系や土木工学などの専門家
コーディネータ

（細川課長）

昭和終わり～平成始め 河川環境に目が向いた時期
利水（こどもの遊び場）、環境保全

H3から 鳥取県でも 「じげの川」をキーワードに親水公園をたくさんつくった
H4 車尾小学校と日野小学校の小学生に、日野川河口から源流を見せ、作文を書かせた。

バブル崩壊後なかなか難しくなった。

多自然型川づくりの成功例：八東川くらいか。

今の石見川：ブロック積みの護岸がはってあるので、限られたことしかできないだろう。
瀬、淵の復元や水際線を再生するのは難しい。

現在の県では、魚道の整備をやっている。（みお筋再生）

河川事業そのものも、費用対効果が言われており、人家の少ない日野郡の河川改修には国庫補助がつかないのが現状。

しかし、このように地元が始めたWSで熱意が伝わってきたので、なんとかできることを一緒に考えていきたい。

（奥迫）

日野郡の河川改修、国庫補助0ということだが、「農地・水・環境保全対策」をうまく使って、ヨシ刈りなどできるのでは？

（細川課長）

国庫補助0というのは、河川改修費のこと。

県土整備局でも河川ばっかい費は持っている。（日野郡全部の希望箇所は無理だろうが）

（奥迫）

「農地・水・環境保全向上対策事業」とうまくタイアップしてやれば、十分ヨシのばっかいや掃除も含めてやれると思ってよいか。

（細川課長）

農地・水…のことがよくわからないが、調整してできるところはやれるかと…。

（田辺会長）

「農地・水・環境保全対策」は農業用水路についてのもの。

(細川課長)

県が直接ばっかいする事業もあるし、ボランティアでやったことに県から補助を出すこともある。

(後藤)

生態系の調査くらいからは、農地・水…でできるのでは？

(安達)

魚道設置できるのは、どれくらいの落差があれば？

(細川課長)

魚道そのものに制限はない。(予算がつくかどうか)

宗後の堰堤などは、小さなスペースでやるのか、そっくり緩やかな勾配につくりかえるか…。前者の方が可能性あり。

(立脇)

あれは是非してもらいたい。

(地域住民1)

(前田さんの?) 作業小屋のあたりは自然がそのまま。ザワタリ〜河合さんところのセキまでの整備が可能じゃないかと思う。

(奥迫)

県に石見川に何がどの程度いるかなどのデータはないか？

(細川課長)

県は石見川については、一切持ってないのではないかな。天然記念物の関係で文化課がオオサンショウウオがどこで見られたかをマップにしているくらいだと思う。

大河川だと「河川水辺の国勢調査」というものがあるが、県はそこまでできていない。

(奥迫)

いないわけではなかったんで、今から取り組んでいけばいいと思う。

(日置教授)

調べるべきことは調べなければ。それからこうしたらいいなというようなものをまとめていかなければ。

(後藤)

上石見の農地・水…事業で、地域で環境整備や用水路の整備をしたりするとお金が出る。ここの自然環境(河川)についても調査して、放流して、調査した結果悪いところがあったら直して、ということに金を出していいですよということで、この辺りがちょうど私たちが守っていくエリア。

ヨシを刈る、放流する、こどもたちを遊ばせながら自然の観察をしてもらうとかやっていきたいが、放流するにもどんな魚種がいいとかおしえてもらいたい。

ヨシを刈るということは重要だが、全部刈るのがいいのかどうか心配。川に石を置いて川の流れを変えていいのかどうか。ヤマメはいいだろうが、岡山県側のアマゴを放流してよいかどうか。

(立脇)

かつては月瀬橋のところで鮎を放流したことがある。その年は用水路にまで入ってきた。放流してみれば育たないことはないのでは？

(山本)

ヤマメが餌を先に食べるのでは？

(相見)

ニジマスは他の魚がだめになる。

(川村)

全箇所を石を動かして調べてみたが、セムシはどこかの石にもついていて、餌はあるということがわかって大発見だった。漁協で水質を調べてもみたこともないが、昔から鉄気があるからといわれていたが、この状態なら放してもいいのではと思った。漁種は限ります。ヤマメ、イwana、ニジマス…ウナギも良いでしょうね。ただ予算がないので、町内でも順番で。期待しておいてください。私も米子の会に出たときには言いますし。そのうちニジマスなどが川に…私もしたいと思っています。餌があったので安心しました。

(多田)

安達さんのところの前の堰堤から駅前の堰堤までが遊び場だった。40数年前、スキー橋から上に100メートル上がったところに淵が（「ザワタリ？駄渡？ザワタニ？」）あった。かつて岩が崩落して死亡事故があった。それ以来遊び場としては敬遠されるようになった。事故後、山が改修されたのかどうかわからないが、そのあたりも確認してみたい。山崩れや木が倒れてくるなど、遊ぶのに危険なところはないか？ということもとても気にかかる。堰堤を改修したり魚道をつくったりも気にはなるところだが、周辺の山も安全な状態であればと思う。

(後藤)

多田さんの言われた辺り、カワガラス、カワセミ、サギが魚を捕っている。

カワガラス、カワセミはよほどきれいなところでないといけない。あの間には昔ながらの生態系が残っているのではないかと思う。もちろんホタルも飛ぶし。

鉄気水でいけないのではということがあがあるが、生け簀を作ってニジマス、アマゴも育てた。鉄気水で魚が育たないということはないと思う。

(相見)

これを機会に、上石見の農地・水…とも連携をとりながら、地域でできることはなにがあるのかなといういろいろ勉強し、行政にお願いすることは何なのかというようなことも確認

しながら、これを足がかりに次ぎに発展させていきたいと思う。

地域にもって帰って、飲み会などのときに話題にしてもらったりして、みんなで動いていきたいと思う。

どういうカタチになるかわからないが、2回、3回と続けていきたいと思う。

また佐々木さんのおっしゃったように、川のもとなる山や木の保全も大切なので環境保全税を活用してどんどん間伐していただくように、PRして今日はお開きにしたいと思います。

(川村)

漁業組合から…魚を釣ってもらうのは結構です。たくさん釣ってください。

ただ、キャッチアンドリリースということも思い出していただいて、小さいものが釣れたときにはなるべく放していただいて…。3年経ったらまた大きくなって帰ってきますので。よろしく。

紹介していただいた文献

『中小河川における多自然型川づくり』（財）リバーフロント整備センター

『河川環境の保全と復元 多自然型川づくりの実際』島谷幸宏 鹿島出版会

『まちと水辺に豊かな自然を』（財）リバーフロント整備センター

『まちと水辺に豊かな自然をⅡ』（財）リバーフロント整備センター

石見まちづくり懇談会

8月31日 19:00～

石見まちづくり懇談会 8月31日 19:00～

地域参加者：70人

役場参加者：町長，副町長，教育長，総務課長，伊田課長，山内課長，青戸課長，
内田課長，青葉室長

(北垣室長，長崎)

田辺会長あいさつ

石見まちづくり協議会が発足して、石見校区全体を対象にアンケート調査を行った。
高齢者が日々の生活に不安を感じているということが、表れていた。

元気の出る地域を目指していく。今、まだまだ元気なのでそれを活かして取り組んでいきたいと思う。

町長あいさつ

たくさん集まっていただけてうれしく思います。

昨年まちづくり協議会ができて、このような懇談会を初めて開催した。まち協がどんな取り組みをしているか、どんな課題を抱えているか、お聞きして町政に活かしていきたい。われわれの町はわれわれで守っていく。それが自立。

いろいろと取り組んでいただけており、厚くお礼を申し上げる。

町のできること、地域のできること、役割分担していくことが協働。

少子高齢化でだんだんさみしくなるが、頑張っていかなければならない。

地域から町を、県を、国を変えていくという考え方でやっていきたい。多くの経験をもった副町長が就任した。

実りのある会にしていきたいと思う。

①生活安全と防犯への取り組みについて

アンケート調査の結果、高齢者が、訪問販売や家のリフォーム、押し売り、振り込め詐欺への不安や独居であることへの不安をもっておられることわかった。

自分の判断だけでは整理がつかないことがある。駐在所もなくなり、パトロールしている姿も見ないし不安だという声もあった。まち協で実働部隊をつくるというようなことは当面できないので、パンフレットをつくって全戸に配ろうと計画している。

昨年から防犯パトロールの協力をお願いしており、車にステッカーを貼ってもらっている。警察からは、意識へ訴えるという面で警告になると評価をしてもらっている。これらは、微々たる活動だが、町も住民の不安の解消についてアクションをおこしてほしいと思う。

(総務課長)

非常にいい取り組みをされていると思う。

日南町内では、駐在所が少なくなってきた。パトロールは高速道を中心に行われており、防犯パトロールをやってほしいと思っている。

振り込め詐欺対策については、昨年、総合政策課で各自治会単位で相当数やらせていただきその模様を3チャンネルでも流したところ。そういうようなことは続けていきたいと思う。

パンフレットについては、町でも同じ様なものをつくるというようなことを検討したい。

安全運転管理者の協議会のFAXで、事故だけでなく、声かけ事例などがあつたときも発信してもらうようになった。

町も頑張って取り組んでいきたい。

(相見)

大入峠にタイヤの跡がたくさんあつた。黒坂署にパトロールの強化を要請してほしい。

(総務課長)

交通安全週間に、各校区の危険箇所の点検をすることにしている。大入峠についても警察と一緒に検証していきたい。石見でも何か事例があれば、センターを通じて報告してほしい。

(副町長) 御机から鏡ヶ成にかけて同様な事例があつたとき、何が一番効果的だったかというと、新聞に対策協議会を立ち上げたというような内容が掲載されたこと。数がぐっと減った。県土整備局は実施済みなので、ノウハウはある。

(藤定)

パトロールは見かけるが、ずっと通り過ぎてしまう。時間に余裕を持って、ゆっくり走ったり、住民に声をかけたりしてほしい。

(総務課長)

交通取り締まりよりも防犯取り締まりに重点をおいてほしいと要請したい。

(新田)

地域が活性化しないと町は活性化しない。町民がどんな意見を言うか聞いて帰ってほしい。

(木山)

生活安全部の今年の目標を交通安全、防災、健康としている。

町の防災訓練はよい取り組みだと思うが、今年の予定を問うたところ、予定がないということだったが、継続が大切だと思う。

(総務課長)

山上地区を中心に11月10日に行う。消防だけでなく消火栓も含めて訓練する。

同じことだけでなくステップアップさせていくことも大事だと思っている。

(田辺)

言い忘れていたが、③にも関わりがあるが…。日常困っていることという中に、日用品

の買い物に不便を感じているということだった。移動販売を頼りにしている。

自分でできなくなったとき、介護認定受ければヘルパーさんを頼むということもできるし、社会福祉協議会の対応も多少あると思うが、何かサポート体制ができないものか。

冬の雪かきなども困っている。地域によっては、グループや自治会で対応しているところもあるが、多少論議してみたい。

(福祉保健課長)

非常に大きな課題。特効薬的な施策が非常に難しいというのが現実。

社会保障制度における介護保険制度では、要介護認定されれば訪問介護の中において支援が可能。保険給付なので1割の負担は生じる。買い物支援だけのメニューを組むことには制限がある。介護状態が進行しないように介護サービスを提供するというのが理念。介護保険の対象にならない要援護高齢者をサポートする制度はない。地域での互助しかない。制度上、65歳以上の方が支払っている介護保険料を財源として上乘せサービスや横出しサービスを設定することは可能。しかし、支出額が多くなってくるので、保険給付額が多くなる。これがどこに反動が出てくるかというと、みなさんにお支払いしていただく保険料が高騰してくることになる。一概にすることができない。

しなければならないが、これといった特効薬はないのが現状。

(舟越)

具体的な方法ではないが、2年前の屋根の雪おろしのときに思ったこと。

家が壊れるような状態にあるような人が、街にいる子どもや、親戚に電話して「雪かきをしに帰ってほしい」とか言うような意識がないと、力強いまちづくりや自分の意識をもって生きていくというようなことにつながらないと思う。

チラシの話もあったが、防犯対策には、「隣のお兄ちゃんに電話してみるから待っててくれよ」とかを目の前でやれば、逃げて行くというようなこともあるので、相談してみると意識づくりを啓蒙していくのがいいのではないかな。

(中村)

日野町や江府町には、移動販売がくる。日南町の中でもJAの店舗がなくなるということも出ているが、訪問販売するということはできないのだろうか。

(副町長)

移動販売「あいきょう」。新しい車両を2000万円くらいの補助をもらってつくられた。冷蔵庫や冷凍庫も設備されている。地域にいくと大変喜ばれるし、従業員もいきいきと働いていると聞いている。しかし、移動販売が入ることによって、頑張っておられる地域の商店への打撃も出てくるということも考えられるので、地域を限るなどのやり方もあるかと思うし、JAさんなりそういったところと今後話をしていくということも必要かと思う。

②小学校統合後の校舎の活用について

小学校統合は21年度目途にということは最終結論か。

統合後の校舎が、考えようによっては地域の拠点になることも考えられる。今時点で表明できることがあれば教えていただき、地域ではそれをふまえて今後みんなで考えようということにつなげていきたい。

(教育長)

最終結論かということについては、現時点では最終結論。

保護者のみなさんのいろいろな意見を集約して、そういう目標で動いている。議会でも審議をしていただき、結論をだしていただいたので、これに向かって、準備や研究や論議をしているところ。

統合後の校舎の利活用については、地域のみなさんと十分意見交換をして地域に合った活用につなげていきたい。教育委員会としては、町全体として、矢戸にある資料館の移転先の位置づけや、学校博物館の位置づけも考えていきたい。老朽化している状況もあるので、研究し意見をいただく中で、解体撤去の可能性も視野に入れておかねばとも思っている。

(田辺)

児童数の状況はどうなっているか。

(教育長)

今が、220人くらい。今後減ってくるが、小学校は200人をきりますが、極端には減ってこない。

学年毎の人数が一番多い学年が42人でここが2クラスになる。続いて38人、35人、30人…となってこれらは1クラス。

(舟越)

解体処分される場合、校舎だけ解体して体育館は地域のために開放してほしいという場合には残してもいいのか。グラウンドの活用は、グラウンドゴルフしたいけれど運動会をするときには芝生が邪魔になったり、管理のこともあったり。地域の要望によって分割して残す方法も考えられるのか。

(教育長)

そういう方法も視野に入れて考えていきたい。

(金森)

校舎を改築しなくても日野上小学校に入れるのか。

(教育長)

日野上小学校にというのは、今の段階の教育委員会のひとつの案としてとらえていただきたいが、そういう方向で研究もしている。

今のままでは、手狭と考えている。150人規模でつくった学校であり、教室も手狭。下側の校舎は木造校舎（旧中学校の校舎を引き移転したもの）でありその改修も必要。

(金森)

校舎の全面的な改築があると大変ですな。

(教育長)

ひとつの案として、日野上小学校の増改築でと考えている。

(相見)

活用方法を石見まちづくり協議会で考えたときには、校舎の維持管理は役場がするのか校区に丸投げすることになるのか。

(総務課長)

町の行政財産になるので、維持管理については役場が費用をみる。施設として一体感のある管理をしていく。

(町長)

小学校統合21年度目途に進んでいるが、今、教育の根本というものを議論している。早々に結論がでるはず。その際には町民のみなさんに集まっていたりして、教育の将来方法について理解していただきたい。小学校の校舎がどうあるべきかも含めてそういう場を通じて結論を出したい。廃校舎についても、地元と十分協議しながら、地元が使わないということなら解体撤去も必要になってくる。

要は小学校の教育の根本をどうするか。統合後の校舎の問題もありますが、根本をどういうふうにしていくかをとらえながら、では、校舎はどうするのかということで今後進めていきたい。

(藤定)

統合後の校舎の活用も大事だが、どこに統合してどういう受入体制をとるか、21年度に本当にできるのかという問題も解決していないような状態なので、そちらを先に進めてもらいたいというのが保護者の意見。

来年1年間で増改築や受入体制の整備ができるのか。

(町長)

増築や受け入れるというお話もありますが、それも含めて21年度に間に合うように、これから物語を確実にするという考え方。いずれにしても間に合うように取り組んでいくという心構えです。

(藤定)

中学校も古くなって改築が必要だと聞くと、日野上小学校も増改築を考えているということだが、今の中学校の辺りを山をきってしまった、小中合同の校舎を建てたらいいがな一と夢をみている。できれば、小中あわせて校長一人ということになったらもっといろいろな面でよいことがありはしないかと…夢です。

(町長)

そういう議論もすすめておられるようなので、もう少しお待ちください。

(中村)

各小学校は、災害があった場合に避難所に指定してあるのではないかと。それがなくなる

ということは、石見校区に避難できる場所が確保できないのではないかな。

(総務課長)

地震以降に防災計画を改訂した際に、石見東小学校の本校舎は防災計画の避難所としてははずしている。

災害の種類によって避難所もちがってくる。こういう場合にはどこに避難するというようなことを地域地域で決めていくということが大切だと思う。中石見ではそういう研修もあったと思うがそういうことを引き続き続けていただきたい。

③少子高齢化と人口減に伴う「まち」のあり方

30年後の日南町の人口3000人台という推計があるが、周囲を見渡してみると、あと10年たったらどうなるだろうと心配になることもある。集落で葬式などやってきたが、それがたちゆかなくなる。3000人台になると尚鮮明になってくるだろう。そうならないようにすることが行政や我々の責務だったが、全国的に人口が減ってくるという中で、ここだけ上向きの体制がとれるのかというと難しい。そこでそうなったときに我々の生活はどうなるのと考えたときに、自治会もまち協もなりたたなくなるのではないかな。人口減と少子高齢化、避けて通れない状況なので、まちのあり方はどうなのかと論議してみたい。歳をとって、家庭の一員が町内にいなくてもよそにはいる場合が多々ある。そこが第1義にものを考えなければというのが、まずあり、それは当然。しかし、割と子どもに気兼ねをしているのが高齢者の実態。「うちの雪かきもしてくれ」というのがそこである。

本当に自分の家に暮らせない状態になったときに、子どものところへ行くのかあるいは、日南町で住みたい、生涯を終えたいという方が結構おられるので、地域や行政で面倒をみていく形態が必要になってくるだろう。

暮らせる場所の選択肢を多くしておくことが必要ではないかな。公だけでなく民間とも連携して。便利な地域に施設をつくって、困ったときにはそこに入られるんだという選択肢を考えておかないといけないのではないかな。

(企画課長)

本来は一番最初に議論する内容だったかもしれない。

具体的な手法についてひとつ出てきたが、そんなにこの先厳しい世界、この地域でどう生きていくのかというのが大きなポイント。

昭和35年当時の人口16000人、2005年で人口6100人。

ポイントとして、18歳から24歳の新規に就業就学する年代の定着が非常に悪いということがあり、この10～20年間にこの年代がどれくらい出たかという、コンスタントに、毎年60～80人町外にずっと転出していった。この部分をどうにかしないといけない。30年後どうなるかという、人口は3100人。いろいろな努力をするんでしょうけれど、おそらくこれに近いかたちになるということを覚悟しないといけない。

どういう展開をすればいいか、団塊の世代が大量退職して田舎に入ってくるということが

あります。60歳以上の転入率を15%アップして考えたら、30年後このような人口ピラミッドになる。社会保障として支えるべき方々が非常に多くなる。これが良いか悪いかはこれから論議されたらいい。語弊があるかもしれないが、転入者を増やすということもいろいろものを考えていかなければならないということもある。なぜこうなったのかということで、18歳～24歳の減少の話をしましたが、もうひとつは、従来日南町の雇用というのは、建設業が30%、農林業が35%、サラリーマンが35%の就業形態だった。公共事業の減少により、建設業が減っている。この10年間で600人が減ってきており、統計上では農林業に入っている。町内的な所得は非常に下がっている。

日南町といえども、生き残りをかけていって、なんとか日南町として生きていこうというときに、平成14年くらいのときは、一般会計70億円くらいで、比較的うまい財政事情でやれていた。現在は50億円くらいになっている。今後48～49億くらいにしていかなければ、自治体としてもたない。どういうことかということ、役場がする仕事を凝縮して削減していかないと自治体として生きていけないということ。いままで役場として町民のみなさんへ出していたものも削減されるということがあります。この数年間でその実態はおわかりと思う。この流れは抑えることができないことと覚悟しないといけない。

地域のなかで何がおこっているかですが、束ね役、監視役、監督役としての警察の駐在所、郵便局の集配局の再編、商工会のセンター方式、JAも。20～30年前日南町を支えるのは、農協と森林組合と商工会と役場と言われていた。ほとんどそれが総崩れになってきている。

これからどういうふうな町をつくっていくのかについては、18～24歳がコンスタントに就業できる形態をつくっていくということを最優先で考えるべきことと思っている。

動きのひとつとしてはオロチであり40人、もうひとつは福祉会のグループホームで26人。老人の住宅ということもあるので、コンスタントな雇用を継続していくことになる。それでも60～70人という数なので、18歳～24歳の毎年町外に出ていく人数の全てを止めることはできない。なんとか役場が支援しながら、働く場をきちっとつくっていくということが必要だと思っている。

社会保障としての部分では、子育て世代の支援を重点的に考えるという時期にきていると思っている。

この地域を守るということで、住民自治組織をできるだけ強くしていくこと。役場が支援というかたちで手厚くやっていた部分が多少減ってくるということがあっても、地域のみなさんが協力しあいながら、がちっと固めたかたちでの集落機能を作っていく。

人口が減ってくるので、石見では自治会組織を頑張ってやってもらっていますが、これから先、これが本当に維持していけるのかなという場面が出てくる。そうなったときに、このまち協というふうなもので、担い手というか組織を変えてやっていくということができる。

高齢者の話がありましたが、会長が言われたように、コンパクトシティというやり方が

ある。いろいろな意向や意味合いがあるので全てというわけではないが、たとえば、冬期間だけとかあるいは年間でも、ある一定地域に多くの人が集まって居住スペースを作りながら生活する。そうすることによって、商業や利便的なものもある程度機能し、居住としての機能が維持される。

将来的に私たちの地域ををどういうふうにするのかという点では、ただこの地域を守るんだというだけでなく、いろいろな視点のなかで考え方を変えながら、役割分担を変えながらやっていくということが必要ということをご理解願いたい。

公的な資産（インフラ）について、今まで行政が担当して管理してきたが、その部分では、多少なりとも住民のみなさん方に管理していただくという時代も想定される。良い話でなく厳しい話だが、いかに官と民が智恵を出しながら、汗をかきながら、この地域を守りながら、できるだけいい地域としてこの我々の地域社会を守っていこう、いい形でやっていこうというときには、非常に多くの智恵と努力が必要なんだという話です。

（長尾）

限界集落がものすごいスピードで進む。

子どもを残し、孫を残すと…そうしなければ、人口は増えない。そのためには就労場が要るし。そういうことをもっと早めに考えないといけなかったのに後手後手にまわっている。過疎で人口が減るのは仕方がないという「仕方がない」という言葉はもうダメだと思う。いかにするかを考えなければ。

公共事業が減る。減る分の手当というものは地方や役所が補いをしなければならない。智恵の補いをしないといけない。それでみんなが立ち上がっていくんだと思う。

日南町に私は「住んでいる」でなく「住まわせてもらっている」という日南町に是非していきたいと思う。

④地域からの質問、要望

（塩見）

10数年前にこの地域は地滑り危険地域に指定され、この後調査され、工事された。幸いに災害は発生していない。しかし近頃災害が多く発生している。この対策がなされた以降から将来的に安全かどうか知りたい。

（建設課長）

10年ほど前に上石見地区の地滑り防止工事をした。鳥取県としても大がかりな工事だった。

報道等でご承知のとおり、土石流、地滑り、がけ崩壊とある。

上石見地区は地滑り。土地全体が地下水などによって飽和状態になって、ゆっくり土が動いていくといった状況が見られたので、井戸をたくさん掘るといった対策をした。それが高じて今のところ大きな動きはない。

土石流については先年の8月の豪雨でも、日野上、多里であった。これについては、上

石見地区でも大丈夫とは言えない。

がけ地の崩壊については、かなり家の裏の方が高くなっているところがあるので、大雨で水が下に浸透するとどうしても弱い部分ができきて、その表面が出てくるという可能性がある。

ゆっくり水を含んでいたものが滑り出ることについては対策ができていますが、複雑な自然状況に則った部分についてはどこでおきるかわからないという現状で、土石流のハザードマップなどをセンターに貼らせてもらって注意喚起させてもらっている。

大雨に関わらず、川に水がなくなったとか、山鳴りがするとか、泥のにおいがするとか、がけから水が吹き出しているとか、小石がおちてくるというのは危険信号。日頃から雨が降ったら注意していただいて、次にどう行動するかということを話し合っておいていただいて、しかるべき避難場所や順路等を確認していただくのが大切。

今までの災害の基準を超えるような事象が発生している。これをしているから大丈夫ということはない。

自治会から質問やご提案をたくさんいただいているが、それぞれ担当課の方で対応することにさせていただきたい。

(舟越)

道州制の話がされているが、日南町が単独でやっていこうということになった場合、単独でもやっていけるのか、合併せざるを得ないのか。

(町長)

鳥取県は、強制的に合併を進めるつもりはない。しっかりと行政改革をやりながら、頑張っているところ。

新しい総務大臣も道州制を予定どおり進めるとしているが、日南町は日南町でやっていけるように地域力を高めていきたい。

山上まちづくり懇談会

9月3日 19:00～21:40

山上まちづくり懇談会 9月3日 19:00～21:40

地域参加者：28人

役場参加者：町長，副町長，教育長，総務課長，藤原課長，伊田課長，青戸課長，
内田課長，青葉室長

(北垣室長，北原，長崎)

会長挨拶

盆踊り、花火大会が無事に終了し、皆様のご協力に感謝致します。まち協の中での事業も今年度いっぱいありますが、ご協力の程よろしく申し上げます。皆さんにたくさんの意見を出して頂きたいのですが、時間制限がありますので、今回はレジュメに書いてあるテーマを主に議論したいと思います。有意義な時間になりますようよろしくお願い致します。

町長挨拶

まちづくり協議会の懇談会を計画し、7つの協議会に出かけさせてもらっています。今夜は、たくさんお集まり頂きまして、お話が伺えることを、そして課長、副町長が参っております。なるべく多くの話をしていきたい。昨年まちづくり協議会が発足しました。これからは地域のことは地域で、自分たちでできることは自分たちで、という合言葉のもとにこのまちづくり協議会ができた。まだまだこれからです。いろいろな取組みをしてもらって、地域が元気になる取組みをしていただいていることに敬意を表する。住民が主体になって、町や国を動かす時代。地域の意見を吸い上げて、行政にも反映していく。今回まちづくり協議会ができて、じかにみなさんとお話できるのは初めての取組み。地域力を高める、そして元気になる、そういう皆さんの意見を発表していただきまして、今晚の会が意義のある懇談会にしたい。都市と町の格差と言われているが、全て行政がやるのはできない時代。では、地域でできるか。そこを住民と協働して、住民参加のもとに一緒になって取り組み、そうしないとなかなか地域も町もよくなかない。そういうことで今日は有意義な懇談会になることをお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

(地域の交通問題について)

6月ごろ町の方から地域への検討依頼。山上もまち協では自治振興部が中心に話を聞こうと集まってもらいいろんな話をした。新しいルートについてみんな興味をもって話を聞いた。山上は地域が分散しており、一通りの道路だけでは生活できずいろいろな面で苦労している。交通の不便な地域。10年ほど前から水曜バスがある。学校統合の際にも子供の通学方法のために、使っていたが、その合間を使っている。住民が自主的に取り組んでいる。当時は利用者いたが、人口の減少などで利用人数低下し、経営厳しい。場合によっては地域の方で新ルートを検討してもらえば、となっている。道路状況が難しく、結果は出ていない。新行政(?)につきましても、説明して頂けるとありがたい。

(企画課長)

3年前に町営バスとなり、道路運行法80条に基づき、町が責任を持って運行するという形になっている。片道200円、6路線。もともとスクールバスが基本であるので、中学校への通学が中心。朝一番と夕方は運行し、路線も型も決まっている。そのため、昼間は全く乗っていない。多里線は6往復、そのほかは5往復。土日祝日は空バスで走っている。町としては、一つは住民がバスに乗れるダイヤ改正をしたいと思っている。スクールバスの機能を維持したままで。また、全くバスが来ない集落もある。そういう地域にも試行的にでもバスを来させてほしいという話。しかし、車両の大きさ、道の幅員、障害物、除雪の問題などがある。声が大きいくから行くという話にはなかなかないが、この二点をなんとかしたい。21年4月に小学校が統合するし、中学校もある。スクール機能を維持したままで、住民に乗ってもらえるダイヤにしたい。21年にはできるように。これから1年半社会実験をする。乗ってもらえる時間、路線にバスを走らせる社会実験。使ってもらえるバスにしたい。バスの予算は4000万。4000万のうち、皆さんに払ってもらっているものと補助金を合わせて約半分。残りは町が負担している。この負担を大きくしたくない。2000万を上限としてバス路線を維持したい。社会実験のやり方について路線ごとに皆さんに6月から協議してもらっていた。各校区ごとにいろんな意見が出ている。時間の話もあるが、今までバスが来なかったところにくるようにして欲しいという話。10～3月を1期、4～3月を2期として見直しをはかる。道路事情や除雪などもあるので、希望にかなうかわからないが、充分協議したい。無理すると、現行の路線の維持も難しくなるかもしれない。各地域増減があるが、トータルコストを増やさないようにやっていきたい。利用している人の声も聞いてきた。日南病院の利用者でバス利用は4割。残りの6割のうち4割はタクシーや乗り合い。残りの2割はJRや徒歩。バス時間に縛られるより、月1回、2週に1回、タクシーなどで好きな時間に行き、パセオによったりしたい。謝礼を払っても隣の人に乘せてもらったほうがいい。だから、バスを使ってもらえる交通手段のやり方を検討したい。4月から、現状でいろんなところで議論していき、承認してもらい、手続きした。やり方は、土日祝日は2往復。8時過ぎに出発と3時に出発。平日は一日4往復地域と7往復地域を交互にしていく。できるだけ、2日に1回はバスがいっぱい来るという状態にする。結果としてバスは不便だという結果が出ると考えなければいけない。できるだけ乗って欲しい。(33:35)

水曜バスの利用者はどんどん減っている。当初ワゴン車で運行していたけれど、現状としては、タクシーの乗用車でやるけれどもいっぱいにならない。また、沿線の道路が、道路工事のこともあり、社会実験の期間中、水曜バスの路線にバスを入れるのは難しいのではないかと考えている。しかし、その道路の状況などを考えながらも、例えばいまの阿毘縁線からの茶屋・笠木あたりからまわしていくっていうのも一つ検討としては、あるだろう。しかし、地域の皆さんに乗ってもらわないと意味がない。だから、地域の皆さんや道路関係者ともっと協議しなければならない。1年半はあくまで社会実験であるため、21年4月からの小学校統合のためにしっかりとした路線を作る、そのためにするというこ

を理解してほしい。

そういうふうな形で検討中。

(西尾)

水曜バスは週1で平均3.5人なんですよね。ただ要望としては、病院の診療科目によって曜日を替えることの検討を続けなければならない。なぜ利用人数が急に減ったかというと、町営バスが200円になったから。しかし、水曜バスも維持しなければならないから、電話を受けて迎えにくるという形にしている。試行運転は石見線と大宮から阿毘縁線に上がるというものだけだったけど、どうせ実験するなら同時にしたらどうか。もう一つは21年の小学校の各校統合について住民に対してのきちっとした説明がない。中学生も小学生もスクールバスの負担金を払っている。でも日南小学校が統合した時にはお金を払っていなかった。しかし、町営になってから負担している。数少ない子供たちにそこまでさせなくても、負担しなくてもよくなるのか。

(企画課長)

町の生き残り、自立を考えるとときに、町と地域の役割分担の話である。例えば、200円バスになったから水曜バスが減ったとすれば、社会実験をして阿毘縁線の本数を2日に1回増やす。それを交互にやるので病院の診療科目の該当部分は2週間に1回は来る。そうすると例えば、本線の阿毘縁線の停留所まで地域の皆さんで送る仕組みはできないか。水曜バスがだめだとすれば、多里ではNPO法人としてそういう話を検討している。山上也そういう議論をしてはどうか。議論の際には町も協力する。町だけが全て負担するのではなく、みなで役割分担をしていく。10月からの社会実験では2路線。しかし、安心・安全が最重要であるため、除雪が大きな問題。事故の発生が予想される状況はさげたい。今、石見では下石見から上がってきて上石見に行って花口に行って、それからUターンしていたものを大倉山を1周することにした。距離数も減る。住民から言うと生山に出るのに下に向かうバスだけでなく場合によっては上に向かうバスに乗らないといけないということで混乱を生じることもあるが。県道は除雪態勢がしっかりしているのでそういう取り組みもよい。大宮では菅沢の中津合の地域。秋原から今の本線はバス路線には戸数は少ない。菅沢で言うと国道から中津合に行って、呼子に行く方が多い。戸数が明らかに違う。大宮地区として、合意によりとりあえずやってくれ、除雪態勢もできるというので。各路線ごとに要望が出ている。合意した段階で支障がなければやってみるつもりだ。

また、小学生にバス代がかかり、教育費がかかるからだめだという話ではない。子育てには親としての負担が必要。学校、町、地域のそれぞれの負担でよりよい教育をすることが教育論である。地域にることによってどこだってメリットデメリットがある。これをメリットとして生かすような子育てをすべき問題。負担は大変だが、教育ではこれからお金がたくさんいるので、その中で言うのご理解頂いて、全体でみんなで子育てをしていきましょう。

(西尾)

だから、町営バスくらい負担は町ですべきじゃないか。地域格差があつて、山上だってバス路線まで保護者が送り迎えして、保護者はそれなり以上に負担している。義務教育の間くらい町が面倒見るくらいできないか。

(総務課長)

今のバスの料金は実際は100円。そしてなお定期で割引があつて、それが日南町で子育てしたくないとか、第3子を生みたくないとかそういうほどのことか。しかし、誰もお金を払わずにただがよいからと、言い出したらきりが無い。町としてもこれが本当に重税感があつて、非常に重荷になっていけばそう言っていただきたい。実際は違うと思う。一番何が大変なのかを考えて、日南町の定住につなげていく。ただにしたからといって、教育環境、子育て環境がよくなるわけではない。しかし、小さなことを積み重ねて大きなものになる。

(西尾)

子ども守る気があるなら子供のバス料金まで取るな。お金の重さ、軽さではない。日南町がどれだけこれから人を留めていくか、というときに子供のバス代まで取るのはおかしい。

(坪倉博則)

町はがんばっているのに人は増えず、税収も減る一方。元気の出る日南町にするためにどうしたらよいか。今のままでは少子高齢化が進む。そうならないために大きなことをする必要がある。町が子供の義務教育関連費用を全部負担するとか。こうゆう夢のある日南町を作ると全国から来る人もいるかもしれない。

(町長)

町営バスになったから有料になったというより、かつてはあのバスで600円とか払っていた。一般の人が一律200円という中で、最終的には保護者であるが、子供にもいくらか負担してもらってもいいんじゃないか。義務教育費を全部ただにすれば全国から集まるのではないか、ということだったが、それが必要ということなら、今後議論を加えていく。

(副町長)

公共交通機関はみんなが乗らないと成り立たない。ダイヤに合わせてでも乗るくらいしてほしい。そうすることで子供の負担も減るかも。バスに子供だけでなく、大人の目をおくことも子供の社会性が育つ。あえて乗って欲しい。

(内田)

交通問題について、6月下旬、久城室長が来た。福万来―佐木谷―福寿実に、4月目処に200円バスが通るようになる、といわれた。水曜バスの問題もあると思うが。

(企画課長)

担当室長はそういう話はしていないと言っている。社会実験としてやるときは地域との希望としてそういう話をしてほしいということで終えていると聞いている。水曜バスの路

線に町営バスが走るということは決めてないし、そういうことはこれから議論してほしい。

(山浦) (56:50)

たとえ話として出されたものだったが、道路状況などから、難しいかなと思う。せめてアメダスから横田伯南線を通して、狩場、親和、下多田や小郷に出ると。そういう方向も考えられるかなと。

(企画課長)

もう少し議論させてください。誤解を招き、申し訳ありません。そういう決定していないので、今後協議させてください。

(近藤)

スポ少やPTAなどの活動、スポ少での試合などに町のバスを出してもらえないかという話を出したけれど、だめだという話だった。スポ少の各種大会やPTAの行事などにもっと使って頂きたい。

(教育長)

バス利用について、教育関係については、いろんな面で便宜をはかってもらっている。スポ少やPTAに利用したという経過は今までない。スポ少については、上位大会については、経費の2分の1の補助をするという形にしている。民間バスの経費の2分の1を負担している。町のバスは他の事業と重なったりして、なかなかタイミングが合わない。スポ少、PTA活動に町のバスを使うという方向は出していない。しかし、空いていれば優先的に教育関係には使わせてもらう。

(近藤)

要望としてそこを前向きに検討してもらえるのか。

(教育長)

スポ少関係については補助制度があるので、それを使って。

(総務課長)

中学生は。空いていれば総体などでも。

(近藤)

だから空いていたら私たちも使わせてもらっていいのではないかな。

(総務課長)

例えばスポ少が町で一つの団体であれば問題がない。しかし、いくつかの団体がある。一番 大きいのは運転手が今非常に少ない。スポ少が盛んなときは、いろんな行事が集う。だから空いていればいろんな形でも教育委員会と連絡とりながら使ってもらう。小学校の遠足なんかでも。そういうことは協議もしている。

(近藤)

お願いすれば出してもらえる可能性があるということですね。

(総務課長)

単位のスポ少については勘弁して頂きたい。

(近藤)

いや、PTA活動なんかでも。学級Pなんかで。

(総務課長)

それは無理です。学級Pなんかは無理です。日南町全体の学級Pに対応したら、町のバスではない。ある程度公共性を理解してほしい。例えば県のPTA大会などではある程度協議していきたい。

(住民 A)

水曜バスも高齢の人が亡くなって、これから利用者が少ない。町営バスにしてもどこから乗っても200円は間違いではないか。段階があってもいいものではないか。どこから乗っても200円のなかで町の財政がえらいというのは、考えられない。

(町長)

遠隔地の人に乗っていただいて便利にしてもらう、というのがキャッチフレーズ。遠くで600円の人が乗りにくいということで便宜をはかっている。

(住民 A)

水曜バスは600円だが乗っている。それでもかどから乗られるということで利用してもらっている。だから路線バスは段階があってもいい。一つは町の経済のこともあるのではないか。

(副町長)

民間では段階があっても当然かも知れないが、町は福祉ということを出していかないと交通機関は経営が成り立たない。200円でも成り立たないのが実態だが。福祉的な平等性を考えれば、ひとつの手段として、料金の単一制がある。一律200円は町とみなさんの考え方の結果だと思っている。

(住民 B)

今町営バスで200円で乗ってもらうということは、町が半分の負担をしている。200円を300円にして、町の負担を減らすという考えもあるのではないか。

(副町長)

公共交通は乗りやすさが大変有用性がある。街中では100円バスもある。お客さんに乗ってもらうというのも公共交通の役割。200円は妥当。

(企画課長)

例えば10月から町営バスを維持するために400円にします、としたら、どうか。

(坪倉博則)

400円だったら乗らないと思う。200円だったら乗る。

(山浦)

集中運行方式は10月から実施するのか。

(企画課長)

そのつもりである。

(山浦)

その時に、ほかの路線との比率はまちまちにするのか。

(企画課長)

車両の関係で調整しなければならない。2と3の二つのグループに分けて行う。その考え方については町報に詳しく載せる。

(山浦)

新しいルートについては、いわゆる山上の地域内でもう少し話を煮詰めていって、こちらから提案するのが必要なようですので、9月10月のうちには会合を重ねて見極めをつけていく。会合の際には参加してもらいたい。

(坪倉)

小郷－佐木谷ルートは道が狭いからいけないという話だったが、山上はどの線がバスが通れますと役場の方で決めてもらわなければ。こちらが決めても通らないならつまらない。通れる通れないなど、道路の資料を出して。除雪体制とか。狭い道路でもバスは通るのか。

(企画課長)

それは議論しましょう。この冬はだめですが。

(坪倉、西尾)

役場が案を出して、こちらが選ぶほうがよい。幅員が狭いから…というようなことは逃げ口上だ。

(副町長)

地元には地元の案があるので、こちらから出すよりは、いいものができると思う。道が狭いところは補強しましょうとかできる。

(ヒメボタルについて)

(住民課長)

鳥取県の希少動植物の保護に関する条例を作っていて、その中にブッポウソウが入っている。今町でも環境基本計画を策定中。希少動植物を町、地域みんなで守っていきましょう、という項目もある。みんなで自然の動植物の生育環境を保護していくことが大切。希少動植物の窓口は住民課の環境部門。相談にのる。補助事業もある。地域で希少動植物を守っていくということで、保護管理の案があれば補助がある。2分の1。こういうことも検討していく。

(副町長)

ヒメボタルの話をしたら、みんな見に来て、感動する。環境保全の立場であると同時に人の魅力をひきつける資源であり財産である。多くの人に見てもらい、感動してもらいたい。例えば観光の専門家なども感動する。しかし、やりすぎるとホテルが逃げていってしまう。地域として、こんなことをしてもらったら、ホテルを保全しながら客にも来てもら

えるという話をもっとしていきたい。

(坪倉久光)

何回も重ねて行って、よりよい体制を作っていきたい。

(副町長)

県の福祉保健部の環境部門や野生動植物の専門家などを交えていろんな話をしていきたい。

(町長)

ヒメボタルはすばらしい。ただ、環境との兼ね合いもある。その辺はまた協議をしながら。

(坪倉久光)

今年は宣伝が過ぎたか、非常にたくさん来て頂いた。駐車場もないし、車のマナーも悪い。虫かごを持って来て、蛍を持って帰る人もいた。ゲンジボタルとヒメボタルが同時に見れるのは全国でもないのでは？日南町の財産。町や鳥大と連携してもらって、考えて欲しい。駐車場も通行止めも検討課題である。

(青葉室長)

ホテルや地域資源の保護活用は地域や行政がうまく連携して、として、そういう方向として会議をしたいと言っておりますので、その方向で。

(建設課長)

交通問題も非常に関連が出てくる。近年の公共交通を取り巻く事情が非常に厳しくなっているのも、今までみたいに進捗をとということが難しくなっている。

まず、安来伯太日南線ですが、山上橋から小学校。もう工事をお願いしており、あそこに防護の柵を設置して、交通止めをお願いをしているところです。笠木や茶屋自治会にはお願いしておりますが、山上全体に周知徹底が全部ができてないということもあり、工事現場に案内をつけたい。その山きりをして、2年くらいでできるのではないかな。なるべく早く完成したい。(1:28:)

あと、横田伯南線、この下につきましては、進捗はよくなっていたのですが、今新しい和田橋のところで橋梁の工事をしております。本年度、その橋の工事とその小郷側の山切を一部する。平成20年度はその処理と上の山切り等について工事をしたい。21年度以降は、その法面の処理や落石の防止柵等がある。まだ相当の金もいる。年数もかかると聞いている。なるべく安く早くできる方法を今年検討する。川側の方がよいとなれば方線変更もあるかもしれない。(1:30:)

それから、落合から下多田、狩場の横田伯南線の改良についても要望している。難しいが効果的な整備を検討していきたいとしている。

多里伯太線、萩原から笠木の区間についても緊急性や必要性を総合的に考えながらと県が

答弁している。県の財政も厳しいため、充分に進捗をはかれていないが、検討するという
こと。

福寿実から狩屋原も1箇所は地元説明まで行って、工事が進んでいない。これについても
なかなか採択をされていない。今後も引き続き要望をしていく。

(青葉室長)

山上の生活改善センターのこと。要望があったということにつきましては、山上の生活改
善センターに地域振興センターを移転をしてほしいということがあった。

(総務課長)

このセンター自体が使い勝手がどうなのかという問題はある。また生活改善センターに
トイレなどを設けて移りたいという要望も聞いている。しかし、山上全体の施設について
も考えてもらいたい。山の上小学校の統合後のことも。たんぼぼの家も休んでいる状態。
そのなかで、全体的に今の生活改善センターを改修整備して、そういう機能を置いたほう
が本当にいいのか、を長期的な視野で考えて欲しい。管理の問題もあるので、もう一度山
上の中でどこがよいのか、そこに資本投下して整備して、何年かしたらそれも困ったね、
という話にならないか、ということをまち協の中でも自治会でも、もう一度協議してもら
いたい。

(西尾)

役場の担当職員も同席のもとで、山上の自治会長会をしたところで、生活改善センター
の管理費が出なくなることがもとで出てきた。でしたら地域振興センターが生活改善セン
ターの方にいけば、トイレや事務室の改修などもしてもらえるのではないかとすることが
あった。そこで、連合自治会の、常任委員長が陳情に行けば、役場に行って話をしたら、
まちづくりの会がこななければいけないということで、またまちづくりの会で陳情している。
そこまでして、役場から一言も返ってこないのか。

(池田)

私は役場に出かけたが、あそこに直していただいても事務局がないと役に立たないとお
願いしたら、まちづくりの会長を通して申し込んでくれ、と言われた。まちづくりを通し
たら返答してもらえると取りました。だからすぐ返答していただきたい。もう3ヶ月たっ
た。それで今のような答えをどうして出すのか。自治会長会もし、まち協でも話をし、生
活改善センターの運営委員会というのがあり、そこでも検討した。今日も階段を駆け足で
上れる人しか来ていない。まち協のお年寄りの会議も全部あちらでしている。もうちょっ
と早く返答すべきではないか。

(副町長)

常々町長から報告・連絡・相談について徹底させているが、一部職員には伝わっていな
いことがよくわかった。住民の信頼を得るためにも、今後徹底していきたい。

(坪倉清一)

山上の自治会長会に伺って話をしたが、ここは使い勝手が悪いので生活改善センターの

方に本拠を移したいという話があった。また、連合会長が出られるので、報告してください、ということで、その次の日に青葉くんへ報告した。出てこられた後は青葉くんへ窓口を移して、よろしくお願いしますとした。

（青葉室長）

私のところに池田自治会長さんが出かけられて、お話は何った。今日の説明の中でまちづくり協議会の会長を通じて話さなければならないと言ったと言われているのは、結局自治会連合会の会長がお出かけになるということで聞いてはいたが、今、町としては、山上の場合まちづくりの会の意向はどうかということを相談した。というのは、地域振興センターの位置づけというのがあり、生活改善センターを地域振興センターに移転をするという話はまちづくりの会の拠点であるから。高齢者には不適であるなどの事情も聞いた。

ただ、まち協の会長が来られれば承諾するという話はしていない。地域内の公共施設の動きという話をした。

（企画課長）

池田自治会長が小学校の統合もあるからという話をされたので、そのつもりだった。

（池田）

誰が返答するかなど徹底すべきだ。

（西尾）

山上での話は、済んでいる。あとは町の予算の話だ。

（山浦）

私もその後の詰めの話をしにも行っていないが…。

（総務課長）

山上生活改善センターは、連合自治会で管理してほしいと（大宮は印賀自治会）言っている。

（池田）

もっと早くに返事をしないといけないだろう。小学校についての話は、私もした。早く返事をしてくれれば、いろいろな対応もできる。

（副町長）

再度整理して早くに返事をするようにする。

広域消防 生山出張所についての説明（総務課長より）

（近藤）

冬期、救急車と一緒に消防車が出動していたが、今後は救急車だけになるのか。

（総務課長）

そうなる。

日南町に対して不都合がないようにすると言っている。なにかあってはいけないが、あったときにはすぐに連絡してほしい。

人口で判断するのが間違っている。日南町は高齢者も多いし。出勤要請も多い。

(坪倉博則)

一校統合についてだが、どういう方向性で進んでいるのか知りたい。

(教育長)

21年度目途に検討している。学習し考える会は定期的にやっている。

教育のあり方会議でも議論している。

(山浦)

情報がPTAや地域に伝わってこない。わからない。他人事になってしまう。もっと綿密な会をすべきではないか。盛り上げていく態勢が必要。

(山浦)

山の上小学校の校長は、発言する機会がないと言われるが…。

(教育長)

どこまで伝わっていなければと思っておられるかによるが、議会等でも話を聞いてもらっている。

(町長)

なぜ統合するのか？現状の教育ではだめだから。

日南町がどんな教育を目指していくのか議論している。またシンポジウムも企画されることになっているので、みんなで議論していきたい。

(坪倉博則)

大勢の意見を聞く機会を設けることが必要。

(町長)

23日に参加してほしい。

(坪倉)

100kmマラソン何年するのか。高齢化するなかで、10年やっていけるのか。日南町へのメリットは？

(指名) ボランティアですばらいということもあるだろうが。

実行委員会の決算報告を見たことがない。

町民が喜んでボランティアに出るようなマラソンだといいと思う。

(町長)

10回大会までやるのは決まっている。

それからのことは、今後の議論による。

地域の活性化をどうするかというところ、財政が厳しいが智恵をしばって一緒にやって

いきたい。議会とも一緒になって取り組んでいきたいと思っている。
今日のような議論を今後もぶつけてほしい。

阿毘縁まちづくり懇談会

9月4日 19:00～

阿毘縁まちづくり懇談会 9月4日 19:00～

地域参加者：26人

役場参加者：町長，副町長，教育長，総務課長，伊田課長，山内課長，古都課長，
内田課長，青葉室長

(北垣室長，北原，長崎)

丸山会長あいさつ

通常、新春放談会ということで正月にすることにしていたが、このたび全町でということがありましたので、この時期に開催した。

阿毘縁は日南町内で一番小さい地域。どう安心して住めるようにするか、日々協議し、村づくりに邁進している。

町長あいさつ

まちづくり協議会ができて、初めての懇談会ということで、全地域をまわらせてもらった。

要望を聞くだけの会ではなく、まちづくりと一緒に考える会ということで開催している。

この地域は、農業に力を入れていただいている。朝どれもすばらしいものが出ていると思っている。

人口が一番少ないが、一人一人が頑張っておられ、校舎のあとも有効に使っておられる。一緒になって頑張っていきたいと思っている。

①地域農業のあり方

高齢化が進み、耕作できなくなってきた。相互扶助。

最も有利な法人化等、考えていただきたい。

米をブランド化して付加価値をつけて売っていくこと。

(阿毘縁だけか？町全体か？検討の余地あり)

和牛の振興も重要。仕事を辞めて和牛の子牛生産をはじめた人もあり、若い世代が興味をもって続いた。

冷涼な気候を活かした花の苗の栽培もされている。

(農林課長)

法人化が流行っている。国は重点主義・排他的施策か。

法人税24.数%かかる。

品目で集まって作るピーマンを集団で作るなど。農家でない人も参加できる。

米について

仮渡し金が低下した。 6100円→5250円 (岡山県は3500円)

米そのものの価値は変わらない。

仁多米：カントリーに入っているものとそうでないもの間にはかなりの差があると思われる。本町からも流れているはず。

日南町の米は、全部でも40,000袋ほどなので、全国勝負はできない。特定地域をねらうのがよいだろう。100円でも多く配当できるよう取り組みたい。JAと相はかってやっていきたい。

和牛について

昨年の和牛は空前の高値だった。単体かくみあわせか考えてもらいたい。

花の苗について

消費地の天候に合わせた苗が苗ができるだろうか。

平場よりも山で作った苗がよいということについては、野菜の苗の方がもっとよい。苗を他の人が鉢にあげて鉢植えを売ることも考えられる。

野菜の大量生産について

農家以外が農業へ。林業－農業

ピーマンの自給単価：米子並み

商業－農業

ピーマン3500本。夏場の給料を賄えればよい。

冬場はもち加工。

もち加工時期の労働力を確保するために、夏場に農業を取り入れた。

ピーマン10町歩 1億円事業。中国地区の一大産地となる。

買ってもらう先を先に決めて、買ったたかれないようにしないとイケない。

阿毘縁の加工品には、珍しいものがある。特産品の可能性がある。

山椒の葉を年間通じて青い状態で出せるのは阿毘縁だけ。

そうめんかぼちゃの奈良漬

(坪倉議員)

仁多に米が流れているというのは、本当か。

(農林課長)

私の家の近所でも、全量ではないだろうが、トラックが来ている。

(丸山会長)

温暖化の影響でコシヒカリの特産地が北海道に移行している。阿毘縁は準高冷地。米のブランド化は今からでも遅くはないと思う。

(古都)

JAと連携して高く買ってくれるところを探したい。

(町長)

大宮では、農業には魅力がないなどの話も出た。決してそうではない。阿毘縁は米の適地。和牛もいいし、花についても一生懸命やっておられる。野菜も高冷地野菜で人気がある。リンゴもある。経営大学校に行く人もあり、若い人が育っていると思う。

今後、食糧難が来ると思う。農業を大事にしていかなければいけない。

(遠藤)

5250円の話聞いて、米作りはやめた方がいいなと思った。

(農林課長)

不在地主が多い。

面的な農業を団地化し、手の空いた人は品目…に取り組む。収穫時期や精算の特徴を組み合わせて、仲良くやっていただきたいと思います。

(荒金)

法人化について検討してみたけれど、メリットが少ないという結論にたどりついた。

中山間地でやることについて、「どうか」と考えるべき。

大規模化、作業委託と自作では違う。考えていかなければと思う。

②阿毘縁まなび宿の活用について

まなび宿の第1の利用者は音楽家。

今後、陶芸家、工芸家も来られる予定になっている。用途によっては、中の改装など必要になることも予想される。なるべく受け入れていきたいが、行政としての考えはどうか。

経済や、人とのつながりなど、難しい面も多い。都会から入ってきた人と地域民の間で、考え方や生活様式に違いがあり、トラブルになったことも過去にあった。

(総務課長)

監査委員と一緒にまなび宿の中を見せてもらったところ、大変よい状態で使っていると思った。

Iターンが皆定住するとは思わない方がよい。地域のみなさんもしっかりした方なので、誰でもよいというわけではないだろうと思う。

役場に聞いてもらえば、滞納のありなしくらいは、聞けるかもしれない。

内部の改修については、あまり特別なことはしない方がよいだろう。町としては改修するつもりはない。「町や地域がこのようにしてくれるなら来てもよい」というようなこと

なら、次、いいところが見つかったときにはすぐに出ていこう。

広瀬町の事例を聞いてみるのもよいかも知れない。

地域を変えるのは、若者とよそ者とばか者と言われる。

工芸、陶芸には、魅力ある場所だと思う。

(丸山会長)

周囲の土地の利用については、ある程度はよいだろうか。

(総務課長)

その都度相談してください。

(荒金)

冬場の高齢者のグループホーム

冬場に安心して過ごせる環境が整備できないかと、常々思っていたが、居住スペースになると改修が必要。

(総務課長)

雪の量に左右される使用頻度の問題もあるが、また相談したい。

(町長)

安全には大きな問題だと思う。

③地域からの質問要望事項

(足立)

大菅では携帯電話の電波が届かない。高齢者が多いので、是非よい方向で検討していただきたい。

(企画課長)

形態電話の不感地域の人口600人くらい。

au、DOCOMOが採算が合わないなどで事業化してくれない。ソフトバンクが光ファイバーを使って事業展開したいと言っている。今週交渉することになっている。

(荒金)

緊急地震速報と防災無線をリンクさせることはできないか。

(総務課長)

技術的には可能かもしれないが、膨大な経費がかかる。

緊急地震速報と地震の到達までがたいへん短いので、困難だと思う。

リンクしたテレビなどは可能だと思う。

(石橋)：女性

小学校は21年度目途に一斉統合なのか。山の上小学校の統合は急だった。じっくりや

ってほしいと思う。

(教育長)

山の上小学校は、11月に翌年4月に統合することを決定し、短期間でよくできたと思っている。三者の理解、協力、努力のおかげと思っている。

確かに、統合時の子どもたちは不安定だったと思うが、今は仲間が増えてよかったと言ってくれている。

統合後の教育のあり方について研究、論議を進めている。この教育のあり方会議では、就学前の教育のあり方についても総合的に考えているところ。

(荒金)

小学校が地域にあると、PTA活動すると地域貢献になるという感があったが、小学校がなくなると、地域のつながりが希薄になる。子どもは地域で育つのだからつながりは必要。子育て世代の地域活動への参加がない。意識的な地域での取り組みをPTA世代にやってほしい。

(石倉)

統合後小学校の場所はどこになるのか。

(教育長)

財政のことや有効活用ということで考えると、今現在、教育委員会では日野上小学校の増改築ということを思っている。

(石倉)

日野上小学校ということなら、阿毘縁からは通学時間が長くなる。ところによれば、印賀経由のバスに乗る子どももいるのではないか。

木材市場の跡地利用ということも考えた方がよい。

(教育長)

経路は短くなるように考えなければならないが、通学時間は長くなる。

(町長)

位置の問題も含めて近々に一応の結論を出すことにしている。そして9月23日にシンポジウムを行うので更に議論を深めていただきたい。議論の場をつくりたいと思う。

(町長)

農業問題はこれから大切。

住んでいる私たちが安心して安全に暮らせなくてはいけない。

いろいろな機会をとらえて、普段から何かあれば、言っていただきたい。

(丸山会長)

地域のみなさんにはお疲れのところ、また役場からは、公務ご多忙のところ来ていただ

き、ありがとうございました。

今は、地域振興が基本である。じっくり考えて、みきわめながら進んでいきたい。

今後もいろいろな機会をとらえて協議していきたいと思う。